

創生会朝倉郡支部機関紙『革新興論』：解説と紹介

平井，一臣
鹿児島大学教養部助教授

<https://doi.org/10.15017/16352>

出版情報：政治研究. 43, pp.115-176, 1996-03-31. 九州大学法学部政治研究室
バージョン：
権利関係：

資料紹介

創生会朝倉郡支部機関紙『革新興論』—解説と紹介—

平井一臣

一 解説 — 創生会と『革新興論』 —

(一)

ここに紹介する資料は、一九三〇年代の福岡県を中心とする北部九州の有力な国家改造運動団体・創生会の朝倉郡支部が発行していた支部機関紙『革新興論』である。この資料は、創生会朝倉郡支部の中心人物の一人である永露忠利が、彼の日記（一九四二（昭和一七）年）、写真、他の新聞・機関紙類（『九州青年』、『東亜建設』、『朝倉新聞』、『朝倉情報』等、いずれも一部）やメモ類とともに保管していたもので、永露の長女中村清子氏の御厚意により閲覧させていただいた。

本稿では、『革新興論』のアウトラインについて簡単な説明

を行ったうえで、『革新興論』の記事タイトル一覧と支部活動関連記事を収録することにする。

(二)

最初に、地域的國家改造運動団体・創生会について簡単に説明しておこう。創生会は、一九三四（昭和九）年三月に福岡市で結成され、地域を舞台に運動を展開した國家改造運動団体である。同会は三〇年代半ば、福岡市を拠点として、福岡県内、さらには九州各県に支部を設置し、北部九州地域では最大規模の國家改造運動団体へと成長していった。結成当初から大衆の組織化を運動の最大の課題に掲げた創生会は、合法主義路線を志向し、一般に志士的な気分を多分にたたえた少数者の運動の多い当時の日本の國家主義運動のなかにあって特異な存在であった。地域レベルからの大衆の組織化を中心とした運動を展開し、そのことにある程度成功した創生会の存在は、戦前日本の國家主義運動の大衆的支持基盤の問題を考えるうえで注目すべき存在であるばかりでなく、名望家支配秩序が大きく揺らいだ当時の地域政治構造のなかで

国家改造運動が果たした役割を検討するうえでも多くの検討材料を提供する。

創生会の実質的リーダーは、『九州日報』主筆の清水芳太郎であった。一九二八（昭和三）年一月、中野正剛の『九州日報』の経営権取得に伴い同紙の主筆に就任した清水は、一九三〇（昭和五）年にいったんは『九州日報』から退き、清水理化学研究所での活動に専念していたが、五・一五事件が勃発した一九三二（昭和七）年に『九州日報』での評論活動を再開し、一九三四（昭和九）年の創生会結成を実現させた。^①

創生会の活動は、創生会のリーダー清水のパーソナリティに負うところも少なくはないが、会の急速な拡大・発展のなかで多くの支部が結成され、支部独自の活動も展開されていった。したがって、地域的な国家改造運動団体・創生会の活動の全体像を明らかにするためには、リーダーである清水の思想と行動を明らかにするだけでなく、支部活動の具体的な展開過程をフォローしなければならぬ。創生会が一定の大衆運動としてこの時期にどの程度の運動を展開したのかという点を明らかにしていくためには、支部活動の検討は不可欠な作業なのである。その意味で、支部機関紙として発行され

た『革新興論』は、支部活動の実態をかなり正確に伝える資料であり、当時の国家改造運動を最も下部において支えていた人々の行動形態や意識を知る手がかりをわれわれに提供するものである。

（三）

さて、『革新興論』を発行した朝倉郡支部が結成されたのは、二・二六事件が発生した後の一九三六（昭和一一）年四月九日であった。創生会の支部設立は、一九三四（昭和九）年四月の大牟田支部の結成を皮切りに、同年五月の浮羽郡支部、八月の筑紫郡支部、翌三五（昭和一〇）年一月の佐賀県神埼郡東脊振村支部、熊本県支部、山門郡支部、二月の糸島郡支部というように、結成直後から約一年の間に次々と実現していった。こうした支部結成状況全体の流れから見ると、朝倉郡支部の発足はかなり後発に属する。しかし、『革新興論』に六回にわたって連載された「創生会朝倉郡支部の出来るまで」という記事によれば、支部結成の端緒はすでに同郡の青年が創生会が毎月開催していた創生塾へ参加するようになった一

九三四（昭和九）年夏頃に遡る。そして同連載記事によれば「同志の獲得を見つゝある時美濃部達吉博士の天皇機関説は国民注視の的となり創生会も遂に決起するに到りて十年十月五日午後七時より浮羽郡吉井町小学校に於て清水芳太郎先生

一年後のことであるが、その間会員は次第に増加したようである。一九三七（昭和一二）年三月時点で二三〇名程度の会員数を数えている。

列席の下に西日本国民大会の開催となり、「此の大会に於て同志の結束を一步強化し支部結成の機運も亦旺盛になつて第一回同志の顔合せ会を十月十一日午後六時半より福田村白鳥の和佐野福美氏宅で開催」することになった。参加予定者の病気でこの会合は流会となったが、一九三五（昭和一〇）年一〇月一日、朝倉郡で伊エ紛争真相講演会を開催し、「是が朝倉郡に於ける、創生主義宣伝の最初」となった。さらに二月には創生会が最も勢力を注いでいた活動である肥料値下げ運動に参加し、「肥料値下げ建議案」を審議する福岡県会への傍聴を他の支部会員らとともにに行った。そして、年が明けて三六（昭和一一）年一月一日、「支部結成準備協議会を開催する事に一決し当夜各村の先覚者へ案内状を発送」した。ところが翌月、二・二六事件が発生し、支部の発足が若干遅れ、四月九日に甘木町希声館において支部結成大会が開催されたのであった。『革新興論』の創刊は、支部結成からさらに

このように一年以上の準備期間を経て創生会朝倉郡支部が結成され、順調に勢力を拡大していったのであるが、支部結成及び支部活動のなかで中心的役割を果たし、『革新興論』の発行の中心でもあった永露忠利という人物について若干説明しておこう。永露は、一九〇六（明治三九）年生まれ、朝倉郡福田村出身。一九二九（昭和四）年に福岡市内で蹄鉄業を開業したが、その頃「清水芳太郎の著書、講演等にて創生主義に共鳴し密かに同人に私淑しつつありたる処、昭和九年朝倉郡に移住後同志と共に創生会支部の設立を企て、同十一年四月朝倉郡支部を結成」した。また、『下中彌三郎事典』によれば、永露は、一九三七（昭和一二）年一月に発足した青年亜細亜同盟に参加し、さらに太平洋戦争が勃発して以後は、福岡県の原鶴（筑後川中流域の温泉町）に「南方進出のため青年養成機関」として設立された「江南青年塾」（塾頭、常岡龍雄）に参加している。永露は、創生会会員のなかでも最も精力的に活動した人物の一人であり、清水が福岡を去り創

生会の活動が次第に停滞していった後にも、他の国家主義団体の活動に積極的に参加していったのであった。

(四)

最後に、『革新興論』のアウトラインを紹介することにしよう。

『革新興論』は、一九三七(昭和一二)年四月に創刊された。この機関紙がいつまで発行されていたのかは確認できないが、永露が保管していた綴りには、一九三九(昭和一四)年九月に発行された第三〇号までがあり、欠号はひとつもない。新聞は四面から構成されており(第二〇号、第二一号及び第二四号以降は二面)、毎月一回発行されていた。発行人は一七号までが牧辰夫、一八号以降は永露、編集人は第二六号までが井上鶴蔵、二七号以降が長野実、発行所は創生会朝倉郡支部出版部となっている。一部五銭で一年間の予約購読だと購読料は年間五〇銭であった。発行部数については第一三三号に掲載された記事に、「六百部発行ヲ原則トシテ時折千部発行」していたが第一三三号以降は常時千部発行するという記述がある。

り、さらに第一九号には「現在千二百部発行して居る」との記述がある。これらの記述を額面通り受け止めることはできないだろうが、『革新興論』が支部機関紙であったという性格からすれば、かなりの発行部数を誇っていたといえるだろう。さて、『革新興論』の記事の内容であるが、大きく五つに分類できる。

第一は、支部活動日誌の類である。必ずしも毎号にわたって掲載されているわけではないが、かなり詳細な活動内容の報告になっており、日常的な支部活動の実態を伝えるものになっている。支部活動日誌のなかで注目されるのは、頻繁に創生会本部との連絡を行いながら支部活動が展開されていたことや、治療部や図書部の開設や嵯城部会の設置に見られるように支部独自の活動も相当行われていたこと、さらに他の国家主義団体との関係なども窺わせる記述も散見されることなどであろう。また、第二三三(一九三九年二月一〇日発行)以降は、「支部雑報」「各地雑報」「雑報」というタイトルに変わり、内容的には支部活動よりも創生会本部や他の支部の動向を伝える記事の比重が増している。おそらくこの頃から支部活動が次第に停滞していったのではないかと考えられる。

第二は、支部会員や読者への連絡、通達の類の記事である。支部例会の開催通告、入会案内などを含む支部運営に関わる記事や創生会本部からの通知、創生会本部や朝倉郡支部が主催した集会・大会の案内や報告が逐次掲載されており、これらの記事から支部の組織運営の実態や、創生会本部から創生会員への宣伝方法の実態等を知ることができる。

第三は、朝倉郡内における地域内紛争を取り上げた記事である。村政革新や選挙といった政治問題を取り上げた記事も散見されるが、『革新興論』が最も精神的に取り扱っているのは、朝倉軌道会社のバス運賃問題、生繭現金取引市場問題、ガソリン一万罐事件（朝倉軌道会社が約一万罐分のガソリンを山中に隠匿していたことが発覚した事件）など地域内に発生した経済問題や社会問題にかかわることであった。こうした経済問題や社会問題への積極的な取り組みは、大衆的な支持の獲得を目指すことを基本とする創生会の運動の性格と関連しているものと考えられる。

第四は、創生会や朝倉郡支部が掲げる主義や政策についての解説記事の類である。これらの記事は、先に引用した「創生会朝倉郡支部が出来るまで」というような創生会の活動の

歴史を振り返った記事も含めて、彼らがなぜ国家改造運動に向かったのか、彼らの運動の目標は何だったのか、といった問題を知る手がかりを提供するものである。

第五は、会員による時論や政論である。既成政党批判や統制経済論などの国内問題に関するものや排英論、日独伊三国同盟問題、対中国問題などの外交にかかわるものなど多岐にわたっている。

以上の五つの範疇に属さない記事、たとえば読者による投稿記事や会員の近況報告などもあり、紙面はバラエティーに富んでいる。ただし、一般の新聞とは違い国家改造運動の支部機関紙として発行されたものであるから、記事の圧倒的部分以上の五つの範疇に属する記事に占められていることは言うまでもない。

さて、三七（昭和一二）年四月から三九（昭和一四）年九月までの二年余り継続的に発行された『革新興論』の全体的な変化についてごく簡単に指摘しておきたい。発刊当初の『革新興論』の記事は、政治問題や経済問題を通じての既成勢力批判を中心とする内容であったが、日中全面戦争に突入して以後は次第に對外問題に関する記事の比重が増え、さらに戦

時体制をバックアップするための地域における銃後意識の高揚や銃後組織形成への協力を呼びかける記事が増加している。こうした『革新興論』の紙面の変化は、二・二六事件と翌年の日中全面戦争の開始を経て、「国家改造」運動から「対外硬」運動へとスタンスを変え、さらには戦時体制強化を下から支える組織として自己変化を遂げていった地域的國家改造運動団体の軌跡を示すものといえるだろう。

本資料も用いた創生会の運動の展開過程についての本格的な分析は、機会を改めて行う予定であるが、ここでは、記事タイトルの一覧とともに、支部活動の基本動向を伝える記事（上記の第一及び第二の範疇に属する記事）を収録することにした。ここに収録した一連の記事は、一般に観念的な傾向が強く、大衆運動としての組織化がうまく行かなかつたと言われる國家改造運動のなかにあって、創生会の支部活動がかなり持続的且つ日常的に活動を展開していったことや、そうした活動を支えた人的ネットワークや資金的な問題等についての輪郭を示すものであり、一九三〇年代日本の國家改造運動を地域レベルから再検討していくことの意義を示唆するものといえるだろう。

注

(1) 清水芳太郎及び創生会については、以下の拙稿を参照いただきたい。

「ある『昭和ファシスト』の思想形成―青年期の清水芳太郎を中心として―」『九大法学』第五六号、一九八八年。

「ファシショ化過程と地域社会運動―創生会の組織と運動を中心に―」『福岡県史 近代研究編 各論(一)』一九八九年。

「地域ファシズム運動のイデオロギー―清水理化学研究所と『科学・技術』思想―」『社会科学雑誌』（鹿児島大学教養部）第一三三号、一九九〇年。

「政党内閣期の國家主義者―清水芳太郎の場合―」『社会科学雑誌』（鹿児島大学教養部）第一六号、一九九三年。

(2) 「國家主義系団体の経歴調査(一)」(思想資料パンフレット特輯第二四号)一九四一年四月、『昭和思想統制資料』第一八卷(下)生活社、一九八〇年。

(3) 『下中彌三郎事典』平凡社、一九七一年、一八九〜一九二頁。

なお、以下に資料を掲載するにあたっての方針を記しておきたい。

*『革新興論』記事タイトル一覧は、各記事の見出しから作成したものであり、執筆者が明記されている場合には執筆者名を記した。『革新興論』記事(抄)で取り上げた記事には*印を付した。

*『革新興論』記事(抄)では、入会申込みなど繰り返し出てくる同趣旨の記事については、初出のもののみを収録した。

*一部資料が破損していたり、切り取られているものがあり、その場合は〔欠〕で示した。

*号数の後に記した年月日は発行年月日。

*資料本文について、新字のあるものは新字を用い、適宜句読点および濁点を付した。

二 『革新興論』記事タイトル一覧

〔第一号〕一九三七（昭和一二）年四月

「創刊の辞」(*)

清水芳太郎「神になれ」

永露忠利「再び郡名を汚すな」

「朝倉郡の郷軍有志よ 郡民に正しき時局観を徹底せしめ

よ」

「お知らせ」

農村部生「精農と農村政治」

農村部生「篤農愚観」

革新待望生「本郡有力者内面（一）」

井上鶴蔵（編集人）「町の話村の噂郡人の声」

革新記者「養蚕技術員よ反省せよ」

牧達夫「革新の鐘は鳴る」

永露忠利「有権者よ穴は無い」

井上鶴蔵「地方政党員の自覚を望む」

創生会朝倉郡支部事務所「農村青年に〔欠〕」

塚本深喜「真の生活真の金儲とは」

手柴米太郎（事業部長）「会員諸兄へ告ぐ」

牟田仁右衛門（金川村）「支部大会に臨みて」

「会員欄」和佐野福美（福田村）長野実（蟬城村）大楠清（蟬

城村）永露忠利（蟬城村）

「支部大会後の日誌報告」(*)

〔第二号〕一九三七（昭和一二）年五月一〇日

清水芳太郎「日本教五則」

永露忠利「人形議員の排斥」

永露忠利「大武県議の御教示を乞ふ」

「創生会綱領」

「出版部陣容」(*)

倉光要「政党政治家の錯誤」

甘木一町民「バス賃金値下実行方に就て問ふ」

農村部生「大政党政策実行性」

創生会朝倉郡支部治療部「治療部開設 本日より一般治療開始」(＊)

支部同人「創生欄 清水イズム解説」

倉光要(農村部)「注油栽培の理論と実際」

永露忠利「道の話」

塚本深喜「真の生活真の金儲とは」

「会員に告ぐ」(＊)

永露忠利「弁士注意」

「郡養蚕組合長には斯業に理解と抱負を有する士を選出せよ」

「会員欄」牧辰夫(立石村) 家守孫三郎(馬田村)

「支部日誌」(＊)

牧辰夫(支部宣伝部長)「農村青年に告ぐ」

(第三号) 一九三七(昭和一二)年六月一〇日

清水芳太郎「日本教五則(二)」

高橋正徳「神武天皇建国の御詔勅」

永露忠利「創生会は危険か?主張は着々実現に移る」

永露忠利「在郷軍人の責務今や重大 自覚奮起するの秋に非らずや」

倉光要「教育制限の解放」

農村部生「農村購買力と産業」

革新待望生「有力者資格」

「町の話、村の話、人の声」

「パス賃金値下げ実行方に就いて問ふに再び答ゆ」

支部同人「創生欄 清水イズム解説」

長野実「革新日本丸 舟頭の資格」

永露忠利「民政党の狂言声明を駁す」

牧辰夫(支部宣伝部長)「農村青年に告ぐ」

塚本深喜「真の生活真の金儲とは(三)」

「会員欄」林田卯吉(蜷城)「入会の感想」

革新記者「見よ村政革新の声上る」

林田謙吾「第二次世界大戦の血圧を打診する」

「治療部開設」

「ナンセンス村の大評判」

永露忠利「大武県議の御回答に接し是に答ふ」

「出版部陣容」

〔第四号〕 一九三七（昭和一二）年七月一〇日

春陽生「理想選挙を期す」

革新生「県議補選に当面して」

永露忠利「投票は誰にすべきか」

「再び起る朝倉軌道会社経営のバス賃金値下げ運動」

田中茂義（創生会技術部）「水稻油栽培法の〔欠〕」

「創生会朝倉支部の出来るまで（一）」

「会告」（*）

牟田仁右衛門「意義ある選挙」

「東地農民より救世主と仰がる」

「会員欄」長尾市郎「会費集金に就いて」

井上鶴蔵「農村指導者に望む」

「稲作注油栽培の東地便り」

農村部生「農業経営改善研究会と創生会」

「読者欄」秋月生「朝倉軌道会社と甘木町々民に望む」

「創生会田川郡支部盛大に発会式挙行さる」

「本部便り」（*）

内藤生（蜷城村）「私の信ずる道は（二）」

「治療部開設」

「治療部欄」

〔第五号〕 一九三七（昭和一二）年八月一〇日

清水芳太郎「大空軍を建造せよ」

永露忠利「真の大和民族は起て」

正義生「首相の社会正義に望む」

狂農「相こく一考」

内藤生「私の信ずる道は（二）」

革新大望生「政党より政府鞭撻決議より先づ生産制限を解放せしめよ」

「県下のトップを切る創生会朝倉支部主催の日支時局大演説会 未曾有の盛況裡に終る」

革新記者「主義の宣伝に努めよ」

西田勇（福田村）「現代青年の使命」

「清水先生の満州たより」

塚本生「偉人は何処に」

「読者欄」福田村赤子「神社改築に就て県当局の御調査を願ふ」

「清水先生の御帰福を会員各位にお知らせ致します」

「お知らせ」

「スパイ陣を張れ」

牧辰夫「銃後の国民よ奮起せよ」

〔第六号〕 一九三七（昭和一二）年九月一〇日

「護国の鬼神英霊を敬弔す」

「為政者よ、一大奮起せよ 今や帝国は一步躍進の前夜に立

つ」

「全国のトップを切る日独親善九州国民大会開催さる」（*）

「郷軍有志の対時局感想を聞く」

革新生「全支那を徹底的に救へ」

革新大望生「産業軍に動員令を下せ」

「貨幣制度の旧慣を破れ」

「創生会朝倉郡支部の出来るまで（二）」

「青年紙上弁論大会」（広告）

「会員の覚悟」

「流言飛語に正義社会の出現は阻害さるゝか」

「外務大臣」

「追隨か自主か」

「戦争と結実」

「創生塾開講」

「読者欄」

革新記者「平田県議に望む」

「会告」（*）

皮肉里矢「無遠慮」

永露忠利「日独親善九州国民大会に参加して」

「支部八月中の日誌」（*）

「会員欄」林田卯吉（蜷城村）

長野実（蜷城村）「会員諸兄へ 故郷を出るに際して御挨拶」

「九月の例会」（*）

「処女会森山支部」

「労力で献金」

「区有林を売り」

「平位貞吉氏」

「七熊太郎君」

「東新次郎氏百円を献金」

「谷口コトさん」

「熊谷安土君」

「難病者に福音 創生会支部治療部」

〔第七号〕 一九三七（昭和一二）年二月一〇日

「清水芳太郎著書動乱の支那と将来を見る」

倉生「バス値下を当局に問ふ」

「甘木―博多間を走るバスに嚴重なる取締りを望む 定員の超過に驚く」

「機械なきか職工居らぬか 為政者の精神総動員が必要」

「〇〇商工会に対する奇怪千萬の噂あり」

「県議立候当時の公約粉骨碎身は誰の為か」

「皇国インテリ―女子の精神は腐るか」

立野チエ子「防空演習」

倉生「非常時農業論」

「ひなしろ村報に就て村長の努力か」

「戦後の経済研究座談会 十月二十日 日曜日」(*)

「牟田君の便り」

〔第八号〕 一九三七（昭和一二）年二月一〇日

清水芳太郎「蒙古大帝国の再現 蒙古民族の復興策に就いて」

「動乱の上海より清水先生の便り」

「外交当局の一大奮起を切望す」

「朝倉郡最初の国際催し 日独伊三国同盟促進朝倉郡国民大会開催さる」(*)

「国民大会後援に就て」

「会費」(*)

倉光要「経済革新と支那事変」

倉光生「為政者及び国民の長期戦略」

「朝倉郡国民大会裏面の実感を聞く」

「かくしんこうろん御購読御礼(五)」

「銃後の守り今や堅し 神秘の皇軍へ 馬田校の児童慰問

文(信国実彦、矢野磯美、石橋昇、藍満徹、草場 喜壽、

井上勇一郎、内堀照彦、大場美栄子、井上照子)

「各小学校へお願い」

仲山茂木(朝倉郡郷軍連合分会長)「感謝慰問の辞」

永露忠利「銃後の状況を応召者へ送る」

倉光生「創生会員の覚悟とは何か」

白木生「田川だより」

「創生会朝倉郡支部の出来る迄(四)」

「長野実君の便り」

「会場に就て御託び」

「入会希望の方へ」(*)

〔第九号〕 一九三七(昭和一二)年二月一日

石村貞夫(九州日報特派員)「生々しき動乱上海の現地を見て」

永露忠利「農村自治革新の警鐘を青壮年は乱打せよ」

倉光生「日支直接交渉の相手は誰か」

「御購読を願ふ」(*)

「出版部陣容」(*)

倉光要「皇軍数万の忠魂に誓ふ」

「町村役場、並に産業組合当局に切望す」

牧辰夫「老獺英国外交の魔手に迷ふな」

「同胞半島人に銃後の赤誠現る」

「御医者様にも銃後の美談あり」

「病者の座談会」

「英国大使館に自重勧告文を送付す」(*)

西猛人「日独伊防共協定成立所感」

「牟田仁右衛門氏の便り(第三信)」

「井上六郎氏便り」

「蜷城村同志の集会」(*)

「創生会朝倉郡支部の出来る迄(五)」

「石村、雨森両同志の慰安会を開催」

「会告」(*)

「朝倉郡の一角に英国断乎膺懲の声上る」(*)

倉光生「東洋自治へ時代は移る」

「蜷城村自治革新に青壮年起つか」

「三奈木校の児童の慰問文」(藤田達子、秋吉美津枝、諫山

チエ子、丸林ヌイ子、篠原シゲ子、窪田保之輔、林弘美、

丸山セツ子)

「原稿に就いて」

「読者の方に」

〔第一〇号〕 一九三八(昭和一三)年一月一日

高橋正徳(創生会朝倉郡支部長)「新年の辞」

倉富角次郎（顧問）「天長くして地久し」

〔御寄付御礼〕

倉光要「年頭に当りて誤れる過去を葬れ」

井上「非常時農村の若き女性の奮起を望む」

〔尾崎尊堂代議士は今期議会で又狂言吐くか〕

〔国家総動員の矛盾〕

〔零下三十度の地にある皇軍を想い宴会は止めよ〕

〔予告〕

清水芳太郎「生産力の解放」

〔創生会朝倉郡支部の出来る迄（六）〕

〔牟田仁右衛門〕

〔投稿歓迎 紙上弁論大会〕（*）

永露忠利「声明」

〔平田県議の処女県会に対する感想を聞く〕

西田勇「敵弾頭上へ雨の如くに飛来」

〔読者欄〕

〔産業組合は休日にも便利を図れ〕

〔謹賀新年 福岡県創生会、創生会朝倉支部〕

〔第一一号〕 一九三八（昭和一三）年二月一〇日

〔革新断行の為、重大決意を近衛首相、末次内相に切望す〕

倉光要「経済革新の基礎」

永露忠利「政民両大政党は国政を論ずるの資格なし 即時

解党すべし」

長野実「甘木柴田署長の演説会中止等涙の種」

〔御断り〕

永露忠利「有権者の自覚と県会議員を志望する者の覚悟」

〔福田村出征軍人慰問品 真綿チヨツキにもんちゃく〕

藤本耕南「非常時青年の覚悟」

〔県庁の横着なサイドカー〕

池田平七「九州日報紙上の「今日の主張」に就ひて」

〔創生会入会御希望の方へ〕（*）

〔支部日誌〕（*）

〔三十歳の者も子供同様〕

〔第一二号〕 一九三八（昭和一三）年三月一〇日

永露忠利「国家総動員法案に対する在郷軍人の任務や如何

に」

白木義雄「支那事変は何処へやら 在留邦人の呑気には驚

く」

倉光要「経済革新の基礎(二)」

S K 生「農村の時代性」

係より「革新輿論発行の資金は何処から出るか」(*)

「長野君より」

「国家総動員法案に対し近衛総理大臣を激励」

「大武県議の失格 朝倉郡に補欠選挙あるか」

「銃後に於ける松岡医院の義挙 蟬城村最高の花か」

元巡查「当局の会計検査や視察する者に呈す」

係より「国民よ事変は今からだ奮起しよう」

係より「本紙一周年に就いて望む」

永露忠利「創生会が危険、過激団体とは時局盲目も甚し

見よ読めよ」

井上六郎「東亜平和を乱すものは断じて許すべからず」

「支部日誌」(*)

「グライダー訓練大会団員応募資格」

「創生会入会希望の方へ」

「銃後農村の近況を見て支那広野の皇軍に送る(二)」

「美奈宣神社」

「朝倉郡柳合分会武道大会ある」

「蟬城村分会銃後の勉め」

「活動写真上映」

「銃術練習会開催」

「消防組」

「農作物に就いて」

「副業」

「御購読御希望の方へ」

「現地より慰問品の御礼状来る」

「蟬城村分会事変下の役員」(*)

(第一三号) 一九三八(昭和一三)年四月二十九日

「県議候補者に与ふ」

「棄権、白紙投票の声あるは遺憾」

「国民の大恥辱選挙違反を起すな」

永露忠利「政治家たる者英国に敵愾心を起せ」

長野実(会員)「江南戦線便り」

「清水先生ノ御病氣ニ就ヒテ」

「会計に就ひて」

「本紙に共鳴者多し 千部発行断行」(*)

「御購読御希望者の方へ」

「戦時体制下だ当局に警告す」

「支部日誌」(*)

「役員任命」(*)

「御入会希望の御方へ」

「大日本青年航空団の活躍近し」

「嘘か真か」

「革新余談」

〔第一四号〕 一九三八（昭和一三）年五月一日

「中島県会議員に送る君は郡民の公僕たれ」

倉光要「棄権を何と見る」

永露忠利「皇国臣民の恥支那人が笑ふ」

「見よ選挙の結果は亡国ニ大政党的粉砕だ？政友会の惨敗は郡民の真剣なる告白か？」

「乾繭倉庫前ニ生繭現金取引市場(一)養蚕家大会ノ目的此

処ニ成ル」

「朝倉軌道のバス中間停留所設置は」

「嘘か真か」(「髭者の大暴言」)「三輪村に此の男ありや」「学校の先生方に」

「会告」(*)

「革新余談」

「投書大歓迎」

〔第一五号〕 一九三八（昭和一三）年六月一日

「断固近衛内閣の改造はなる 消極、保守の閣僚今や去り革新の土荒木大将入閣 愈々戦時体制強力内閣出現」

「事变下に漏れるふざげ事 嗚呼不屈極る某校長の醜聞

本紙は断乎と刷新の巨弾を放たん」

「革新余談」

革新記者「全有権者の覚悟」

「養蚕家の中に乾繭組合役員の旅費日当に不満の声高し」

「嘘か真か」(「蜷城村の恥辱よ」)「大福村々葬」「土木管区に怠慢の声」(「投書者へ」)

「御入会希望の御方へ」

「鯉幟に注意」

〔第一六号〕一九三八（昭和一三）年七月一五日

清水芳太郎「池田大蔵大臣に告ぐ」

永露忠利「敵国たる英国との親善は絶対排斥せよ」

「蜷城村に朝倉郡愛郷団生る」

「六才の愛児原田廣君の田耕き 処女会は見習ひ給へ」

「報告」（*）

「入会御希望の御方へ」

「銃後の非国民的暴言を一掃すべし」（投書）

「本紙愛読者長野佐平君従軍歎願」

「創生会々歌」

「銃後国民として創生会朝倉郡支部は何をしたか」（*）

「消防組の慰問」

「嘘か真か」（「福田小学校」、「御医者さんへ」、「大酒喰ひ」

「九水の電気集金人」

「急告 演説会開催す」（*）

「緒方久市郎氏副支部長就任」（*）

〔第一七号〕一九三八（昭和一三）年八月一〇日

「嗚呼三輪村の山中に 驚くべしガソリン一万罐 炎天下
に大唸り不正購入か、此の所有者は」

永露忠利「国民は外交を注視せよ」

「声明書 村民大会は何故中止したか」（*）

「戦没勇士の初盆会をお迎へして」

「入会御希望の御方へ」

「創生会朝倉支部蜷城部会の発会式を挙行さる」（*）

城石茂治「創生会は過激か」

技師さん「繭の現金取引を喜ばぬ」

「嘘か真か」（女教員の厚化粧は非常時には不向）

「創生会を農民組合と云ふ大馬鹿者に與ふ」

「会告」（*）

「自治研究」（*）

「支部報告」（*）

〔第一八号〕一九三八（昭和一三）年九月一〇日

清水芳太郎「朝倉バス会社のガソリン問題」

永露忠利「憂国の士よ 郡民大会にドシドシ来りて時局突
破の熱弁を吐け」

国難生「国難だ、憂国の士よ創生会に来れ」

「会員長野佐平君応召す」

「今夜時局突破郡民大会大演説会開催さる」(*)

「今夜甘木町希声館で時局突破郡民大会大演説会 正義の士よどしどし来れ」

「創生会蜷城部会村当局に具体案提出」(*)

「会告」(*)

「嘘か真か」〔校長醜聞の波紋二題〕、「鱧髭君へ」、「某村当局の失態」、「中小路区の投票者へ」

「本紙の愛読者勧誘に会員の奮起を望む」(*)

「蜷城村々長村会議員を□す」

「支部〔欠〕」(*)

〔第一九号〕 一九三八(昭和一三)年一〇月一〇日

清水芳太郎「今こそ農村の一革新期」

「支部集会」(*)

「選挙違反復権者へ送る」

永露忠利「ガソリン一萬罐事件(一)」

「蜷城村役場の改策」

「柳川中将閣下」

「革新余談」

「時局突破郡民大会盛大に挙行さる」(*)

「高橋大尉 浮羽中学」

「蜷城部会村当局に刷新案提出」

「大根川の金丸橋 大穴で危険」

国松生「国難だ、憂国の士よ創生会に来れ」

「感心な兵隊さん納めた馬は元気だと」

「創生会員は奮起すべし」

「会費を納めて下さい」

「御断り」

「嘘か真か」〔県会議員〕、「中学校の先生」、「役場の書記」、

「中小路区の投票者へ」

〔第二〇号〕 一九三八(昭和一三)年十一月一〇日

清水芳太郎「東洋聯盟」

「政府の仕事此処に」

「愛市推薦同盟」

「五一五事件関係者西川武敏君死す」

「皇軍の占拠地大都市一覽せよ」

「入会御希望の御方へ」

「図書部新設」(*)

「ガソリン一万罐事件(二)」

「甘木署員奈須正義妻君の稲刈り」

「蜷城部会第二回ゾウリ造り」(*)

「料金に就ひて読者へ御願ひ」

「会費を納めて下さい」

「十月日記 朝倉支部」(*)

〔第二号〕 一九三八(昭和一三)年二月四日

「矯風会の支援に町村長の一大奮起を望む」

「県会を傍聴せよ」

「永露忠利」当局は財閥の暴利を速かに押へよ」

「福田村に村民大会開催するか」

「福田村信用組合」

「革新余談」

「東洋民族大会盛大に挙行さる」

「甘木山口署長から表彰さる」

「東蒙古を知る座談会」

「中島県議を訪問」

「会員へ急告」(*)

「各地同志」

「山崎氏東京支部へ」

「畑井氏上海で営業」

「会費」

「蜷城部会十月日誌」(*)

「原稿」

「大陸の新開拓地東蒙古を見よ」

〔第二号〕 一九三九(昭和一四)年一月三日

「年頭の辞 皇紀二千五百九十九年」

「永露忠利」国家総動員法と政党」

「宣言」

「綱領」

「創生会員に送る」

「朝倉郡青年団」

「本年度任期満了の自治体幹部は」

〔中島県議の行動〕

〔甘木局へ〕

西田勇「御奉公の傍百姓の目で支那を見る 〇〇にて」

〔ガソリン事件県会にて質問さる〕

〔蟻城国防婦人会ピシヨぬれで鯛売り〕

〔治療部移転〕（*）

〔会告〕（*）

〔第二三号〕 一九三九（昭和一四）年二月一〇日

山崎末男「革新断行の為に青年は突貫せよ」

永露忠利「支那事変の処理に為政者は決死的であれ」

倉光要「価格統制への不平」

〔牟田氏帰還す〕

〔支部雑報〕（*）

支部長「指令」（*）

砂山秋人「清水先生をめぐるユモリスト達」

〔宣言〕

〔綱領〕

倉光要（農村部）「負債の実質」

山崎末男「東京便り 同志は自重自愛せよ」

〔創生会の修養会〕

〔御利用下さい〕 図書部」

永露忠利「創生会に何故入会したか（一）」

倉光要「専売特許四四一一八号肥料の素に就て」

〔入会御希望の御方へ〕

〔支部治療部移転開業〕（*）

〔御挨拶〕

〔第二四号〕 一九三九（昭和一四）年三月一〇日

〔創生会朝倉郡支部結成満三周年記念時局大演説会 三月

十日午後七時より甘木町希声館に於て〕

〔清水芳太郎先生来る〕

永露忠利「自分の感じたまま」

〔弁士紹介〕

〔町村吏員の待遇改善〕

〔革新余論〕

〔本紙愛読者〕

〔新聞申込書〕

「急告」(*)

永露忠利「結成三周年を迎ふ」

「蜷城村部会の陣容はなる」(*)

「入会申込書」

「緊急指令」(*)

「蜷城部会の建国祭」(*)

「パンフレット」「創生」に就いて」(*)

「入会御希望の御方へ」

「支部雑報」(全文欠)

(第二五号) 一九三九(昭和一四)年四月四日

「創生会の主張と支那事変」

永露忠利「総親和総努力」

「租界問題に断固たる態度を取れ」

「創生会朝倉支部三周年大会盛大に挙行さる」(*)

春陽生「神苑を清めよ」

「海外事情講演と映写会」

「蜷城部会の奮闘を見よ」(*)

山崎末男「東京便り」

「会告」(*)

「急告」(*)

(第二六号) 一九三九(昭和一四)年五月一〇日

「尾崎は英米の代弁者聖戦遂行の叛逆者か 当局は非国民

尾崎を国外に放逐せよ」

永露忠利「租界を断固回収せよ」

「蜷城村長辞職す 村会の正しき審判は創生会に凱歌挙る」

(*)

「政友会の内紛で警視庁に激電を発す」

「町村長の公選制度 町村長は町村民の手で選挙する制度
を実現せよ」

「革新余談」

「創生」

「紙料御送金下さい」

出版部「九州創生会の同志に乞う 本紙を諸君の武器とし
て興亜建設の大聖業遂行と国家革新断行に決起せよ」

「郡農会の大刷新に糸島支部断然決起す」

「同志長野氏帰る」

〔牟田氏渡満か〕

砂山秋人「清水先生をめぐるユモリスト達」

〔会費〕

〔各地雑報〕（*）

〔出版部〔欠〕〕

〔第二七号〕 一九三九（昭和一四）年六月一〇日

永露忠利「軍需関係工場従業員思想」

「老獪英国の暴涙なる行動を徹底的に応懲する事は皇国臣民の最大任務」

〔東京便り閻牛荘雑録〕

〔創生会主催革新団体懇談会〕（*）

〔論昌紡事件に奮がい〕（*）

〔革新余談〕

〔出版部規定〕

〔断固排除せよ 相克摩擦の眞の原因を〕

〔同志短信〕

〔時局座談会開催〕

〔本部〕

倉富角次郎「オロチヨンとカザツク」

〔各地雑報〕（*）

〔会員の方へ〕（*）

〔第二八号〕 一九三九（昭和一四）年七月一六日

「事変満二周年を迎えて全国民は更に決起し新なる大事業租界の回収断行に向つて邁進せよ」

「選挙違反復権者の非国民的行動断じて許されず 謹慎自重せよ」

〔国民に檄す〕

〔東京支部便り〕

〔入会御希望の御方へ〕

〔出版部規定〕

長野実「東洋攪乱の魔手を正義の刀で切断せよ」

〔熊本県創生会書記長雨森隆道氏中支大民会最高顧問〕

〔英国打倒の叫びは全国民の眞なる声だ〕

〔高橋支部長〕

〔草場茂太氏〕

〔城石茂治氏〕

〔倉光要氏〕

〔同志短信〕

倉富角次郎「オロチヨンとカザツクニ」

〔各地雑報〕（*）

〔第二九号〕 一九三九（昭和一四）年八月二七日

永露忠利「平沼首相しつかりせよ」

「乾嶺倉庫の創立者森部隆輔氏に與ふ」

「東亜新秩序と国内革新」

〔選挙警告〕

〔海南島便り〕

〔創生会慰霊祭〕（*）

〔蟻城駐在所〕

〔重大声明〕（*）

〔長崎創生会決起 排英亜細亞民族大会〕

XY生「選挙を真剣へ」

〔頂門の一針〕

〔細少であるが使ってくれ 長野佐平君の便り〕

〔雑報〕（*）

〔朝倉郡支部員急告〕（*）

〔東京雑感二題〕（*）

〔第三〇号〕 一九三九（昭和一四）年九月一八日

永露忠利「老獪英国の暴慢なる態度に阿部内閣は断固たる鉄鎚を下せ」

「郡民の待望久かりしバス賃金の値下げ断行なる」

「バス値下げ運動記録より」

〔急告〕（*）

「亡国党政友会即時解散全国民奮起せよ」

〔時局演説会開催〕（*）

「戦死者益営会に創生会蟻城部会の御礼」

〔選挙警告〕

〔各地雑報〕（*）

〔打倒英国演説会予告〕（*）

〔御注意〕

〔入会御希望の御方へ〕

〔出版部規定〕

三 「革新興論」記事（抄録）

〔第一号〕 一九三七（昭和一二）年四月

《創刊の辞》

「〔欠〕は生活なり」との格言〔欠〕く、吾々の日常生活に〔欠〕はれて居る。吾々は、近きものから、これをよく検討

する必要がある。先づ自己の住む町村政からこれを浄化し革新させて行く事が我等同志の尤も大きな宿願である。そして県政に国政にと、吾等の有する信念を、反映せしめて行かなければならぬ。先づ中央〔欠〕界の事や県政の事は日刊の大新聞が詳細迅速に報導^トしている。処が吾々の足もとの政治には一般人は余りに注意を向けて居るものが少い^ト居ないようだ。

ともすると、因縁、情実や利欲のために、誤つた観察をなして居る。斯る不正義が存在して居る限り、地方自治の振興は期せられないのである。これが即ち自治体の寄生虫であり、町村民の生活を脅威し、惹いては社会を毒する代物である。これを断固と剪除しなければならぬ。報導陣^トにある者の公僕

として責任たるや極めて重且大なる哉である。吾々同志も亦起きざんば已まざるの念願に今回「革新興論」と題し朝倉の一角に孤々の声を雄々しく叶ひ挙げ江湖に相見ゆることになった。熱血燃ゆるが如き赤心を有する同志は筆陣を布き正義に向つて一意精進せん。目標は遠し、使命は重し、革正の業は難し。然し我等の決心は堅く信念は岩をも貫かん。飽くまで所信に向つて邁進する覚悟と決意はある。

拙筆意に伴はず或は卒直に過ぎ或は革新に熱意の余り筆剣振ひ過ぎる場合あらんも、幸ひ大方各位の御叱正と御鞭撻を賜り御聖援を〔欠〕ひ所期の目的に達成せん事を誓ひ我等の決意を披瀝し創刊の辞に更ふる所以なり。

《支部大会後の日誌報告》

三月五日 当支大会開催盛大に終る。

三月七日 地方委員へ四月三日の本部大会出席者調査

三月九日 郷軍有志の住所氏名の調査をなす。

三月十一日 会計の長野氏は雨天を利用し未納会費を集

金す。

三月十二日 牧、永露両氏、支部大会決議文を作成し、郷軍人有志六十八名へ発送す。

四月八日 午前七時より事務所に於て井上、倉光、牧、長野、永露氏集合機関紙発行の準備す。

三月十三日 浮羽郡支部大会に支部代表として永露、長野、林田の三名出席し永露氏挨拶の演説をなす。

四月九日 牧、倉光両氏は本部に行き治療所開設の件打合せ。

三月十五日 牟田氏は清水式エネルギー療法研究のため本部へ行く。永露忠利氏は定休日を利用し

四月十一日 午後七時半より事務所に於て委員会を開催。治療及び出版部開設決定す。

三月二十五日 午後七時半より事務所に於て四月三日本部大会の打合する。

〔第二号〕 一九三七（昭和一二）年五月一〇日

午後一時より本部に於て大日本青年党橋本金吾^{キムラ}氏の中央政局に対する座談会に当支部を代表して倉光氏出席す。

《出版部陣容》
新聞紙発行のため新に出版部を設置しましたので左記の通り陣容を整へ文書報国のため一意邁進することになりました。

三月二十八日 事務所に於て委員会を開催す。

出版部長 井上 鶴造

四月一日 午後七時より本部大会出席者五十名のバス交渉す。

主 筆 永 露 忠 利

四月三日 福岡市西中州公会堂に於ける第三回九州代表者大会四十八名出席す。

編集主任 牧 辰 夫
時論記者 倉 光 要

四月六日 事務所役員会開催す。

投稿整理 長 野 実

社会記者 和佐野 福美

産業記者 塚本 深喜

治療費 一人一回につき

初回（金五拾錢）

次回より（金參拾錢）

《治療部開設 本日より一般治療開始》

創生会本部顧問九州日報主筆清水芳太郎先生は自然科学の研究者にして幾多の発明品を完成し特許権を獲得されて居る。先生の熱意ある創案によつて完成した清水式エネルギー療法の治療所を当朝倉郡支部の事業として当支部事務所内に開設し会員は勿論一般大衆に対して治療をすることになつた。

本会各郡支部の治療部の現況は各支部共非常なる好評を博し受療者より絶大の感謝と感激を受けて居る。連日大繁忙を極め本療法の真価を知り遠近より集まり来る者多く非常なる発展を告げて居る。当支部治療部もやがて大発展大活況を呈するであろうと期待と囑望が寄せられて居る。

本療法は万病に適応し効果顕著なり。難症に悩める人來りて治療を受けられよ。

尚町村長及区長の証明ある貧困者又は本会治療部特別出資者の証明ある貧困者は無料にて治療を行ふ。

◎本療法の特色は患部を適確に明示し灸療法程に苦痛なく快よく治療を受けられるので婦人子供から特に歡迎を受け且又現代人の好評を博する所以であらう。

難症者よ^マ來りてこの威力ある本療法をうけられよ。

朝倉郡甘木町外来春（甘木・田主丸線県道筋）

創生会朝倉郡支部治療部

右の趣旨により国民健康保持のため奉仕的信念に基いて萬遺漏なき様期して行く決心である。郡民大衆の御理解に訴へ本治療部を御利用あらん事を切に御願ひ致すものである。

治療部主任 牟田仁右衛門

《会員に告ぐ》

一 治療部本日より開設、会員治療券（会員半額券）を發行したので会員で未だ公布を受けないひと支部事務所まで御申出の上お受取られたし（受領者の捺印をようす）。

《支部日誌》

十五日 午後六時半より牧、永露、倉光、塚本の四氏集合して新聞原稿の打合せをなす。

十八日 午後七時より牧、永露、塚本の三氏は事務所に集合、新聞原稿を整理し午前一時解散。

二十日 午後六時より牧、永露両氏は新聞校正に集合す。

二十二日 午後八時より手柴、牧、永露、倉光、長野の五氏は新聞発送の為集合す。

尚牟田氏は治療部設立打合せの為本部より帰所す。

二十三日 長野、牧、牟田の三氏は永露氏宅に集合し治療部開設の打合せをなす。

五月一日 午後八時より支部例会を開催す。

三日 午後八時より牧、永露、牟田の三氏治療部開設の準備をなす。

四日 午後八時より草場、牧、永露、牟田の四氏集合し治療部開設準備をなす。

《会告》

★清水先生渡満さる。

本会顧問清水芳太郎先生は関東軍の招電により七月六日朝発の下り航空便にて急に渡満されました。一週間の予定です。

★創生塾につひて

七月十五日より開かれる塾に行つて下さい。行かれる人は至急左記へ申込んで下さい。今日は郡内から多数行かれます。

蜷城村永露忠利方。

★例会選挙ばかりで例会の出来ない事を遺憾に存じます。今

月二十日午後八時より例会開催の予定です。

《本部便り》

六月廿一日午後一時より本部に於て中央委員会開催さる。

よつて左に会議の要件を報告す。

一、中央政状報告（田中書記長）

二、今後に於ける会の方針

口、支部に於て運動を起す場合は一応本部と打合せを行

ふ事。

支部は本部に本部は支部に対し結果報告をなす事。

ハ、具体案研究促進をなす事。

ホ、本部事務所を従来より厳肅にする事。

四、機関紙を如何にするか。

希望として雑誌とする事。

六、九州青年航空団に対しては積極的の援助をなす事。

八、田中書記長辞任し会の拡大運動に主力を注ぎ、常盤光

行氏書記長に就任し会務に専念す。

十、大日本青年党統領、橋本欣吾^{マツ}郎氏、入会申込みの件は

承諾す。

尚、二ノ(イ)(二)、三、五、七、九は是を略す。

〔第六号〕 一九三七(昭和一二)年九月一〇日

《全国のトップを切る 日独親善九州国民大会開催さる》

日独同志会主催による日独親善大会は六日午後七時半より

福岡市県公会堂に於て開催された。此の日支那事変の背後に

ある露国の支那に対する援助に憤慨し日独親善に燃ゆる憂国

の士は定刻前既に三千名に達し、マイクの急設等により定刻

創生会々長沖前代議士の開会の辞について第十二師団留守司

令官代理畑山福岡県知事の来賓祝辞有りて後、東京神戸駐割

独逸大使及領事、支那満州朝鮮東京熊本佐賀各地の同志や創

生会員等よりの多数の祝電を創生会の農村部長有富氏朗誦の

後、西川中将を座長に押し左記決議文を有富氏高らかに朗誦

すれば、満場一致拍手を以て可決す。決議文は夫々電送する

こととなり講演会に移る。講師として福岡高等学校教授クル

ト、ツユテル^ツプーナ氏、福日調査部長金生氏、創生会顧問九

州日報主筆清水芳太郎先生の講演あり。日独親善の最高調裡

に午後十時閉会した。

決議

◆大日本九州国民大会ノ名ニ於テナチス大会ノ盛会ヲ衷心

ヨリ祝ス。此ノ機会ニ於テ兩國ノ提携ヲ固クシ人類ノ病

根タル共產主義ヲ徹底的ニ根絶シ且ツ資源ヲ独占シ貿易

ノ自由ヲ束縛セル現状ヲ打破シ真ノ国際正義ヲ世界ニ敷

カン事ヲチカフ。九州国民大会

ドイツ大統領 アドルフ、ヒトラー閣下

◆日独防共協定を徹底的に強化せん事を要求す。

近衛内閣総理大臣閣下

杉山陸軍大臣閣下

米内海軍大臣閣下

広田外務大臣閣下

九州国民大会

《云告》

今回支部の経費節約の意味に於て毎月

一日を委員会

十日を例会

二十日を特別委員会

と右の如く定めましたから、役員及会員諸兄には今後は別に通知状を発しませんから当日は通知なく共必ず繰合せの上夜の七時までには御出席をお願いします。

尚委員会とか特別委員会とか定つて居りますが例会に出席出来なかつた会員の方も御出席下さつても差支ありませんから御遠慮なくどしどし御参加下さい。

出来得る限り多数御出席下さい。そして支部の状況を充分知つて貰ひたいものです。

とに角会員たる方は毎月一回は必ず事務所に顔出しして備付の名簿に認めをして下さい。

重ねて申します。一ヶ月一回以上必ず支部事務所に来訪して貰ふ事に決めました。

一、委員会は支部長以下地方役員までの会合。

二、例会は全会員の会合。

三、特別委員会は一ヶ月五十銭の会費を出している人の会合。

四、特別賛助委員会は治療部創立に対して一金五円を寄付された人の会合。

《支部八月中の日記》

八月三日 午後八時に馬田村井上鶴藏氏宅に集合。牟田、牧、手柴、倉光、井上の五氏は支部を代表して、会員同村上浦区の草場菊次郎氏宅を訪問し、通州に於て殉職された子息の御悔みをなす。

八月十六日 午後六時事務所に牧、牟田、永露、長野、林田、塚本、の六氏集合し本部に行き、清水芳太郎先生の北満及び北南支視察中の労を謝したる故。時局重大の折会員の覚悟と支ナ時局の動行をきし午後十一時引上げた。

八月廿八日 午後七時より蟻城村美奈宣神社社殿高橋支部

長、井上、牧、牟田、永露忠利、牟田(庄)、倉光、林田(謙)林田(卯吉)、大楠、の十氏が集合し、同志長野実氏の○○に對する武運長久の祈願祭を行い夕食を共にした。

八月三十一日 午前七時に蜷城村長野実氏宅に集合し長野実の○○を甘木迄見送りする。当日の出席者、井上鶴藏氏、牧辰夫、牟田、林田卯吉、林田謙吾、永露善九郎、和佐野岩吉、大橋清、牟田庄次郎。

《九月の例会》

会告に御通知に替へ會員諸兄に御知らせ致して居りました例会は九月に限り十五日に開催する事に致しました。以後は毎月会告の通り必ず開会致します。十五日には色々と協議致し度い事がありますから多数御出席を御願ひ致します。

〔第七号〕 一九三七(昭和一二)年二月二〇日

《戦後の經濟研究座談会 十月二十四日 日曜日》

現在国民大衆の知らんとする事は支那事変終決後の經濟建設に對して、吾國は是が對策を如何にすれば今後世界の一流

國家として立ち行く事が出来るかと言ふ事であらう。故に郡民が互に聞き互に語り合つて戦後の經濟建設に對し國民としての覺悟を定めて置く事は銃後の國民としての重大なる任務ではないかと思ひまして、此の座談会を開催する事になりました。

此の為に清水芳太郎先生と共に東洋ブロック經濟確立の為に如何にすればよいかと言ふ事を多年に亘つて研究されて居りまする左記の講師を迎え左の日時と細則により開催します。多数の御出席を乞ふ。

細則

- 一、開会午前九時より午後五時迄。
 - 一、中途退場を許さない事。
 - 一、各自筆記用具を携帯する事。
 - 一、中食携行の事(但日の丸弁当)。
 - 一、会費三十錢を納むる事(但中食の御茶及び茶菓子代)。
 - 一、開会時間前に集合する事。
- 尚、参会者は十月二十日迄に申込みを希望します。
- 會員の方は
- 一、午前八時に必ず出席する事。

一、中食日の丸携行の事。

主催 創生会朝倉支部
後援 革新興論発行所

〔第八号〕 一九三七（昭和一二）年十一月一〇日

《朝倉郡最初の国際催し 日独伊三国同盟促進朝倉郡国民大会開催さる》

日独伊三国同盟促進朝倉郡国民大会は十月三十日午後六時半より甘木町希声館に於て、創生会朝倉郡支部主催郡長村長会を始めとして郡各種団体十一の後援のもとに開催された。

此の日早朝より雨となり、此の国際的催しも中止の止むなきに至らしめるかの感あつたが、天も此の三国同盟促進の必要を認めてか、正午よりからりと晴れ、午後三時半には六十歳になんなんとする人の入場をトツプとして、愛国心に燃ゆる国民は潮の如く来会し、六時には早くも場外に溢れ定刻前歴史的大会は開会されるに至つた。先づ高橋支部長例の如く大声を張り上げて開会の辞を述べ、東方遙拝、国歌合唱、独伊両国々歌奏樂等が行はれて、司会者を代表して井上鶴蔵氏揆

撻をなしたる後、来賓仲山郡連合分会長殿、沖創生会々々長殿は来賓者の揆撻として、支那事変に対する国民の一大覚悟を要望され続いて永露忠利氏は大刀洗飛行隊長殿を初め、久世福岡市長、森部隆輔氏、杷木消防組、其他満州国、始め全国各地より贈られたる、三十数通の激励電報の披露ありて、座長選挙に入り井上氏より粕屋郡町村長及び具島甘木町長へ座長就任方交渉したるも、不幸にして未だ出席なき為参加者の御推薦を要望したるも司会者に一任と決し、畑井茂四郎氏を推薦畑井氏座長の揆撻をなし倉光要氏別項の如き宣言決議の朗読あり、満場一致可決し、首相、陸海外の四大臣に決議文を送付する事にした。尚別項の如き緊急動議の提出あり、牧辰夫氏はを朗読し可決し、現地に送付する事になり大会は閉会し、引続き記念講演会に移り田中源太郎少将閣下、田中末次郎氏、伊太利国民代表ゼニヨ、ウルソー氏、独逸国民代表ハインリヒ、ヒウエデキンド氏の四氏は、日独伊三国固く団結の必要を力説し、世界永遠平和建設のための大熱弁は満場の大衆に多大の感動を与へ、最後に仲山聯合分会長の発声に依り日、独、伊三国の万歳を三唱して午後九時半二千五百の大衆は散会した。

誓言

世界は今や英米の現状維持国家と赤色ソビエトに示されたる人類文化破壊赤化国群と日独伊に見る正統革新国家の三巴戦を示現せり。西欧の支那スペインの天地に老衰私欲独占国英国とコミンテルン革命の毒牙を振るふソ聯を迎えて聖戦の陣頭に立てる新進独伊両国と共に、世界正義の確立と人類文化躍進の為に共に固く、強く同盟を誓ひ国際理想建設の一日も速やかに到来せん事を祈願し、茲に朝倉郡国民大会を挙行し、天下に不動の決意を誓ふものなり。朝倉郡国民大会

決議

一、本大会は英ソの傀儡たる容共支那の国民党の全面的残滅を期す

一、政府は日独伊三国同盟を即時締結し世界平和確立の大使命に邁進せられん事を望む

内閣総理大臣閣下

陸軍大臣閣下

海軍大臣閣下

外務大臣閣下

一、皇軍戦勝を祝し閣下の御健康を祈る

寺内北支最高指揮官閣下

松井上海最高指揮官閣下

長谷川〇〇艦隊司令長官閣下

《会費》

會員諸兄には御承知の如く支部は経費がなく思ふ様活動が出来ず困つて居りますから大至急事務所か地方委員に御話し下さい。集金に廻る人もなく御互に甘木へ御出た時一寸立寄り支部の情報も聞きスラリと会費を支払つて下さい。此の様な事は新聞に書かないでもよい様にして下さい。

《入会希望の方へ》

創生会に入会希望の方は最寄りの會員又は支部事務所に入会申込みして下さい。人物調査の上認める事になつて居ります。会費は普通會員一ヶ月十銭、特別會員は一ヶ月五十銭と定めて居ります。而して普通會員へは革新興論を送付し特別會員には創生、革新興論を各一部送付します、又會員は毎月一回は例会に出席する義務がありますと共に入会后四ヶ月になりますと治療部の治療半額の特長があります。尚入会と

同時に五十銭を申受ますが清水芳太郎先生の著書五冊を差上
ます、是は創生主義研究に役立つからであります。以上。

時論記者 倉 光 要
記 者 西 猛 人

〔第九号〕 一九三七（昭和一二）年二月一〇日

《英国大使館に自重勧告文を送付す》

《御購読を願ふ》

本誌は互に意の通じたる者が少しづつの資金を出し合せて

正しい新日本の建設は先づ本紙からをモットーとし、発行し

て居る次第である。幸に皆様方多数の御購読を得る事が出来

ましたならば、現在は月一回であります、二回、三回と増

刊する積りです。どうか本紙が郡に於ける正義最大の機関紙

になる様切に御援助を願います。

《出版部陣容》

新聞紙発行のため新に出版部を設置しましたので左記の通り

陣容を整へ文書報国のため一意邁進致すことになりました。

出版部長 井 上 鶴 造

主 筆 永 露 忠 利

編集主任 牧 辰 夫

去る十一月二十九日朝倉郡蜷城村小学校で開催された、英
国応懲中部朝倉郡国民大会に於て満場一致可決された左の勸
告文は翌三十日飛行便によつて発送された。

勸告文

本日九州の一角に於いて貴国応懲の国民大会を開催したる
は、今次の支那事変に対し、貴国政府が吾が皇道大日本帝国
の真意をも解せず、暴虐非道支那軍閥の行動に対し、陰に、
陽に是を援助するが所以である。故に今後貴国政府が従来
の如き態度に於いて、支那国民政府を援助せんか、我々日本
国民は絶対に黙視し得ざる処なり、因つて貴国政府は速かに
吾が大日本帝国の派兵の真意を解し、以て東洋平和確立の聖戦
を断じて阻害すべからざる様、本大会の名に於いて茲に勧告
するものなり。

皇紀二千五百九十七年十一月二十九日福岡県朝倉郡国民大会

駐日英国大使クレギー閣下

《蟻城村同志の集会》

朝倉郡支部蟻城村同志、林田卯吉、大楠清、林田謙吾の三氏は十一月三十日午後七時より同志永露忠利氏宅に集合、夕食を共にしたる後左の事項を協議実行する事にして午後十一時半散会した。

- 一、毎月十七日夜は会員宅に集合、夕食を共にする事。
- 一、村内会員は毎日五十銭を協同預金する事。
- 一、集会毎に清水先生の教示による日本教を朗読し精神の修養を行ふ事。
- 一、村内自治革新を行ふ為同志獲得に努める事。

《公告》

来る二十五日午後七時には事務所で例会を開きますから是非御出席下さい。

協議事項は左の通り。

- 一、二周年大会の件
- 一、会員治療部利用に関する件
- 一、会員除名の件

《朝倉郡の一角に英国断固応懲の声上る》

去る十一月二十九日午後七時半より創生会朝倉郡支部蟻城部会主催の元に、英国応懲中部朝倉郡国民大会は開会された。此の催しの報一度伝はるや、英国断固応懲すべしとの叫びは尚一層熾烈となり、憂国の精神に燃ゆる国民大衆は定刻の切迫と共に、潮の如く押寄せた。而して定刻七時半牧辰夫氏開会を宣し、林田謙吾氏開会の辞を述べ東方遙拝、国歌合唱に次いで永露忠利氏主催者の挨拶として英国応懲の急を叫び降壇、座長の選挙に移り、参会者へはかれば主催者一任と決し、永露氏は蟻城村三好村長殿を推薦し、座長着席後林田氏は左の如き宣言、決議の朗読あり。終つて英国大使館に送付する別項の如き勧告文を朗読一大拍手を以て可決し、続いて蟻城村村長三好正治氏及び内藤威稜夫氏、創生会本部山崎末男氏、三奈木村西猛人氏は来賓として熱烈なる英国応懲と国民の奮起を要望される祝辞あり。平田、大武両県議の祝電披露ありたる後、一応大会を閉会し、記念講演として九州日报社上海特派員石村貞夫、雨森隆道両氏の現地に於ける生々しき報導は参列者に非常なる感動を与へ、高橋正徳氏の唱和により万

歳三唱して午後十一時閉会した。

宣言

老獯英国は支那を煽つて排日、抗日の油を注ぎたるは嗚呼遂に支那事変を生むに至れり。因つて吾が帝国は人類福祉東洋平和確立の為此処に聖戦を展開せり。然るに英国は聯盟を操り九カ国会議を弄び、吾帝国を誹謗し、侵略の汚名を着せんとするは何たる非礼ぞや。故に吾々は英国政府の援支排撃の急を絶叫し亜細亜の禍根絶滅の為英国を速かに応懲せんとを期す。

皇紀二千五百九十七年 十一月二十九日 朝倉郡国民大会

〔第一〇号〕 一九三八（昭和一三）年一月一〇日

《投稿歓迎 紙上弁論大会》

一、演題 非常時青年の覚悟

一、字数 四百字以内

一、発表 昭和十三年二月十日日本紙上

一、送先 甘木町外来春 革新興論発行所

一、入選 一等一名、二等二名、三等三名

一、審査 本紙発行所関係者一同

投稿者は住所氏名明記の事（紙上匿名可）。

審査の上入賞したるものには全文を本紙上に掲載し左の賞品を贈呈す。

一等 本紙一ヶ年、二等 半ヶ年、三等 三ヶ月 外に清

水芳太郎著パンフレット一冊宛。（以上）

主催 革新興論発行所弁論部

〔第一一号〕 一九三八（昭和一三）年二月一〇日

《創生会入会御希望の方へ》

本会の主義に御賛同の上入会御希望の方は、左記の処に申込み下さい。会費は普通会员一ヶ月十銭。特別会員は一ヶ月五十銭でありまして、各会員共本会発行の創生新聞（月刊）及び本紙革新興論を送付し、毎月一回支部事務所に於て例会を開催し、主義の研究及び時局座談会を行ふ事にして居ります。特別会員には別にパンフレット（発行した場合）送付します。普通会员の会費は半ヶ年分六十銭か一ヶ年分一円二十銭の前納を願ひます。

《支部日誌》

一月十日 新聞発行す。

一月十三日 午後七時より経済研究座談会を開催し午後十時解散。

出席者城石、牧、倉光、永露。

一月二十二日 本部より清水先生の病気の報に接す。

一月二十三日 午後七時より牧、永露、倉光の三氏は会員の連絡を取る。午後十時半帰宅す。

一月二十五日 午後一時より倉光要は支部を代表して清水先生の病氣見舞に行き二十六日帰福す。

一月三十日 午後六時より、牧、永露の二氏は会員の連絡に当り午後十時に帰宅す。

一月三十一日 旧正月元日午前八時より永露忠利氏は清水先生の病氣見舞と本部連絡の為に帰福、午後十時帰宅す。

二月一日 旧正月二日午後一時事務所に同志相寄り午後二時より甘木町須賀神社に清水先生の平

癒祈願を行ひ後事務所に於いて今後の支部の活動方針の研究会を行ひ午後十時解散した。集会者高橋支部長、井上鶴蔵、家守孫

三郎、城石茂治、林田卯吉、永露忠利、牧

辰夫、牟田庄三郎、大楠清、倉光要。

午後七時事務所に於いて松岡貞雄、牧、永

露三氏集合、県某課長の件に付研究す。

午後六時より馬田村馬田倉光氏宅に於いて

高橋支部長、城石、家守、井上、牧、永露、

倉光吉五郎氏集合時局座談会を開催、午後

十時半解散す。

二月六日 馬田村の同志家守、手柴の両村会議員及び

井上鶴蔵氏、倉光要氏は午後六時より同

村々長を訪問、〇〇問題に対する重大進言

を行ふた。

〔第二号〕 一九三八（昭和一三）年三月一〇日

《革新興論発行の資金は何処から出るか》

近頃は本紙「カクシンコウロン」発行に就いて各種の噂が盛んに飛んで居ると、各地に散在する本紙記者より情報に接したのであるが金も要らぬ名譽も名も要らぬ唯思ふは国家国民大衆の為正義の一途に向つて邁進して居る吾々としては、斯かる事に一々弁解がましき事を本紙に記す事は大の嫌ひである。然し此のまゝに放置すれば今後又どんな事を云ひ出すか判らぬので誤解一掃の為是等誤解せる分子に対し、此の貴重な紙面を通じて一言を呈して置く。

此の噂の中で最も遺憾に堪えぬのは次期県議或は代議士等を志望する何者かが地盤獲得の為に資金を提供して新聞を發行して居るのである、と極論する者あるを云ふ。実にけしからん事を云ふ者だ。おそらく日本国中尋ねて見ても実に此の新聞位血の出る様な貴い金を出して發行して居るものは絶対に無いと思ふ。実際に貴き金であるか否かは本紙に関係して居る人々を見れば良く判る。全部の者が一定の職業に依つて早朝より夜は遅くまで働き、日常に於いては総てに節約をなした中から、一ヶ月十錢五十錢或は一円と互に支出し是に理解ある読者の購読料も含まれて發行して居るのである。此の様にして真心籠る正義の真精神に依つて發行する本紙に対し

て、第三者の資金云々のデマは絶対に許さるべきではない。今後斯かる無根のデマを飛ばさんとする者は一度本紙發行所へ来たれ、而して其の内容を詳細に知るべし。然る後デマを飛ばすべきだ。味噌も糞も同一すべきは危険千萬である。どうか過去に於いて否目下本紙發行に就いて誤解せる分子諸君は願はくば色眼鏡を外して理解せられ本紙御購読御援助あらん事を切望す。

《支部日誌》

二月九日 新聞原稿を発送す。

二月十一日 井上鶴蔵氏本部と連絡の為出福十三日帰宅す。

二月十三日 井上氏は本部より帰宅連絡の必要上午後三

時永露氏宅を訪問、某件に付協議の上支部長宅訪問当夜支部長宅に宿り、十四日午前九時散解す。

二月十五日 午前十時城石、永露忠利の両氏は甘木にて

新聞の件協議し午後六時牧氏を加へ新聞の発送をなす。

二月十六日 新聞五百の発送をなす。

二月十七日 支部長、井上の両氏は会員出征家族の慰問

を行ふ(午後一時より)。

二月二十日 午後七時より倉光、牧の両氏は新聞の件協

議す。

二月二十二日 午後一時より牧、永露の両氏は倉光要氏を

訪問、重要協議し午後六時に散解した。尚

家守氏は永露氏を訪問した。

二月二十二日 家守氏は午後一時城石氏は午後二時永露氏

を訪問す。

二月二十四日 午後七時より牧、倉光、永露の三氏は新聞

の件に付重要協議の為事務所に集合、某地

を訪問した。

二月二十五日 午後七時より永露氏は連絡の為支部長外会

員を訪問す。

二月二十六日 午後七時より支部長宅に於いて会合をな

す。出席者、倉光、牧、永露忠利、大楠、

城石外三名。尚当日は午前九時より午後五

時迄永露氏妻女は会費の集金をなす。

二月二十八日 午後四時より支部長、永露外一名は某地訪

問す。

三月二日 午後七時より緊急役員会を開催す。

《嵯城分会 事変下の役員》

田中利夫、平田元、井上実、立野司、星野庄三郎、羽野藤

市、萩野好光、重松善右衛門、高倉富次郎、豊原大、楠勝次

郎、西義雄、平田一二夫、田中次雄、椿義雄、林田謙吾、内

藤大炊

〔第一三号〕 一九三八(昭和一三)年四月二十九日

《本紙に共鳴者多し 千部発行断行》

従来ハ経費ノ関係モアリ六百部発行ヲ原則トシテ時折り千

部発行シテ居タガ、月日ノ立ツニ従ツテ各地ノ中堅青年諸君

ノ共鳴者続出ノ有様ニシテ本紙関係者一同モ本紙ノ主張ガ中

堅青年層ニ認メラレツヽアル事ヲ痛感シ非常ニ意ヲ強クスル

事ガ出来ルト共ニ益々本紙ノ目的遂行ノ為部数ヲ増ス必要ヲ

感ジ過去ニ於ケル経費トシテ支シテ居リマシタ本紙関係者ノ

特別会費ヲ今月ヨリ倍額支出ノ犠牲ヲ決意シ今月号ヨリ千部発行ヲ断行スル事ニナツタ。仍テ昨年七月第三種郵便物認可アリ本年三月振替口座加入ニヨリ愈々総テニ渡ツテ充実スルニ至リ今後益々大々的ニ活躍スル事ニ成リマシタ。何卒社会浄化ノ為御活用ト御指導ヲ切望シテ止マヌ。

《支部日誌》

三月十五日

午前七時ヨリ牧、永露ノ両氏ハ清水先生

ヲ見舞ヒ大日本青年航空団福岡支部事務所

ヲ訪問シ四月一日ヨリ都城ニ於テ開催サ

ルヽ、グライダー訓練大会出席ニ関スル件

ヲ質シタル後、九州日報社ニ於テ本部員山

崎、江崎、下地ノ三氏ニ会見、午後八時帰

宅ス。

三月八日

午后四時革新興論第十二号ノ記事ヲ印刷

屋ニ送付ス。

三月二十一日

倉光、牧、永露ノ三氏ハ午后七時ヨリ事

務所ニ於テ中央委員会ニ出席ノ件ヲ協議シ

午後十二時散会ス。

三月二十二日

午後二時ヨリ本部ニ於テ開催スル中央委員
員会ニ永露氏出席、午后十時帰宅ス。

三月二十五日

城石氏ハ都城ニテ四月一日ヨリ開催サレ
ル、グライダー訓練大会ニ郡内ヨリノ出席
申込者ノ資格ノ有無ヲ調査ス。

三月三十一日

午後七時ヨリ事務所ニ井上、牧、倉光、
永露ノ四氏ハ新聞発行ニ関スル件協議シ午
后十一時解散ス。

尚当日ハ西猛人、満生藤市、満生竹雄、
郷原又助ノ四氏ハ支部事務所ヲ訪問ス。

四月一日

午前十一時ヨリ永露忠利、牧ノ二氏ハ某

地ニ集合、某村某有志ニ絡マル○○○○敷

地買収ニ対スル不正ノ噂アリ。是ガ真否ノ

調査及ビ某工場職工ニ関スル○○○○○○
ノ真相ヲ知ル為活躍シタ。

四月五日

午後七時ヨリ事務所ニ林田、和佐野、永

露、倉光、牧ノ五氏ハ集合シ主義及ビ時局

問題ヲ研究シ午後十一時解散ス。

四月八日

午後七時ヨリ事務所ニ於テ總會ヲ開催

ス。

四月九日

午前十一時本部山崎末男氏ハ支部ト連絡
ノ為来甘、城石、永露、牧ノ三氏ハ事務所
ニ集合。午后一時二一同散解ス。

四月十一日

支部長病氣ノ為午后七時半ヨリ井上、城
石、牧、永露忠利ノ四氏ハ支部長ヲ見舞フ。

四月十五日

井上、倉光、永露忠利、原野ノ四氏ハ午
前七時甘木ニ集合。福岡ニテ清水先生ヲ見
舞シ、本部ニ於テ山崎、下地、其他ノ氏ト
時局ヲ談ジ井上氏ハ同夜本部ニ泊リ、他ノ
三氏ハ午后七時ニ帰宅ス。尚林田謙吾、林
田卯吉ノ両氏ハ支部長ノ病氣ヲ見舞フ。

《役員任命》

四月八日役員選挙ノ件ハ支部長任命トナツテ居リマシタノ

デ左ノ通り任命シマスカラ辞退希望ノ方ハ一週間内ニ事務所
へ申出下サイ。申出ナキ方ハ承認サレタモノトシテ今後役員
会ノ通知アリタル時ハ特ニ時局重大ノ折デモアリ出席サレ会
ノ発展ヲ計ラレタシ。

高橋支部長

総務 井上鶴藏 幹事 手柴米太郎(村会議員) 幹事

家守孫三郎(村会議員)

会計 城石茂治 事務長 永露忠利 出版部長 牧辰夫

事業部長 倉光要

宣伝部長 林田謙吾 青年部長 西猛人 書記主任 草場

繁太 書記 井上勇 書記 山下早見 地方委員 馬田村

篠原弥助 同 井上市右衛門 同 倉光吉五郎 同 草場

春吉 蟻城村 大楠清 福田村 永露善九郎 同 上野一

同 和佐野岩吉 同 矢野稔 金川村 加峯栄三郎 三輪

村 印丸栄次郎 夜須村 伊藤宗司 甘木町 松岡貞雄

〔第一四号〕 一九三八(昭和一三)年五月一五日

《会告》

従来役員会は三十数名の集合をして居りましたが之は経費
と事務的に非常に困難な点がありましたので、去る総会に於
いて此の役員会の外に部長以上を以て常任委員会を組織する
事になりました小さな協議事項は此の常任委員会にて決定す

る事になりました。此の二ツの役員会は出来得る限り通知は新聞を利用致しますから先月号に任命されました方々は必ず御出席下さい。尚役員会は勿論会員外の方でも常任委員会及び役員会に御出席御希望の方は支部宛至急御申込み下さい。開催毎に通知します。

〔第一六号〕 一九三八（昭和一三）年七月一日

《報告》

六月二十一日上京中でありました清水先生は七月八日午後五時帰福されましたので、同日午後六時井上鶴蔵、草場繁太、牧辰夫、柴田潔、永露忠利、倉光要、原野進の七氏は本部に出張し同夜午後七時より開催されたる座談会に出席、午前二時一同帰甘した。

《統後国民として創生会朝倉郡支部は何をしたか》

昭和十二年七月七日北支事変が突発して以来此処に早くも満一周年を迎へるに至つた。此の一年間に於ける出先皇軍の艱難辛苦の程は其の萬分の一もペン先に現す事は至難である

と共に統後国民の事変に対する努力も亦見捨てたる事は出来ぬであらう。吾創生会朝倉郡支部に於いても第一線將兵の事を思い浮かべ乍統後の守りに必死となつて活動して来た。左に事変以来一年間の重なる事業を報告しよう。

七月十六日 午後二時より杷木小学校、午後六時半より

甘木町希声館の両会場に於いて郡聯合分會、青年団後援の元に北支事変真相報導演説会を開催し六千の聴衆は事変に対し決意を深くした。

七月十七日 首相、陸、海、外の四大臣に対する激励文を送付す。

七月二十七日 午前十時より蟻城小学校に於いて本会顧問高橋大佐を迎へ蟻城村主催の元に支那事変演説会開催に会員出席。

七月二十九日 午前十時より大福村小学校、午後二時より馬田小学校に於いて支那事変演説会開催す。

八月〇日 〇〇出勤に対し会員全部三輪村国道に見送る。

九月三日 福岡市に於いて開催された日独親善九州国民大会に参加す。

す。

十月三十日

午後六時より甘木町希声館に於いて、郡町村長会、連合分会、青年団、消防組その他七団体後援の元に伊太利、独乙両国民代表を迎へ日独伊三国同盟促進大会を開催四千五百の郡民参加す。

十月三十一日

正月十五日 出征家族慰問に本紙二百五十部発送す。
二月十七日 会員出征家族慰問す。

首相、陸海外の四大臣に激励文送付す。

《急告 演説会開催す》

日独伊三国同盟促進大会の決議文を国民使

来る十七日午后八時半より蟻城小学校裁縫室に於いて創生会蟻城部会結成式を行い引続き時局演説会を開催する。近くの会員は同八時迄に同校に集合されたし。尚本部より有富研究部長外一名の出演されるはず。

節中野正剛氏を通じヒツトラ、ムツソリ

《緒方久一郎氏副支部長就任》

十一月六日

ニイ閣下に送る。

創生会朝倉郡支部では久しく副支部長欠員のまま今日に至つたが時局益々多端の折尚一層団結を計り困難打開に邁進する為副支部長の必要を痛感し人物を物色中の処、去る十二日午后七時井上、城石、柴田、永露の四氏は甘木四〔欠〕緒

十一月十二日

出征軍人に対し本紙三百部を慰問に送付す。

方久市郎氏宅を訪〔欠〕部長就任方交渉の〔欠〕緒方氏も〔欠〕局は正〔欠〕秋、自〔欠〕意され、〔欠〕就任を承諾されたので、今後の朝倉郡の活動は競走馬に興奮劑を與へた如く活発となるであらうと注目されて居る。

十一月二十九日

午後七時より蟻城小学校に於いて英国庶務朝倉郡中部国民大会を開催す。

十一月三十日 英国駐日大使〔欠〕援助中止方勧告〔欠〕尚首相、陸海外〔欠〕臣に対し激励文送付す。

十二月十三日

出征軍人に対し本紙〔欠〕百部慰問に送付す。

十二月二十九日

十二月三十日

十二月十三日

尚緒方氏は明治会朝倉支部の創立者であると共に第一回創生会塾生であつて朝倉支部結成の前の結成準備委員長であつた。結成後は諸種の事情に依り特別会員の一人として支部員の指導的立場に居られたのである。

〔第一七号〕 一九三八（昭和一三）年八月一〇日

《声明書 村民大会は何故中止したか》

昭和十二年六月某出征家族に対する家族扶助料支給に關し、村当局に不祥事の事実ありたるに付、当時本会は村当局に対して注意を喚起し将来の善処方を要望、今日に至れり。然るに僅か一カ年を経過するの間に、又もや今回某同二家族に対する軍事扶助料に關し村当局に重大不祥の事実ありたり。故に本会は本件を最も重視し、数次に渡り慎重協議の結果、昨年家族扶助料に關する不祥事に注意をなし居りたるにかかわらず、此処に二度同種の不祥事を繰返したるは是真に村当局の村治に対する怠慢の事実も甚だしきものなりと思ふ。

以つて本会は今回の不祥事に対して前回同様の手段による

注意の如き微温的態度に止める事は、返つて将来三度此の種の不祥事を繰返さしめるに非ずやと、此の点を深く憂慮し本会は是が対束として七月二十日總會を開催したる結果、此の不祥事、其他村治に対する幾多問題に關して、此際断乎として村民大会を開催し、村民と共に協議し、村民の名に於て村当局へ嚴重なる警告を為し、此種不祥事の再発を防止すると共に、村治の徹底的刷新を要望する事に決し、其の日を七月三十一日に定め準備に着手しつゝ、一方村当局者にも数回に渡り面接したる結果、当局者に於ても其の責任の重大なるを痛感され、将来此の種不祥事の絶対防止と村治刷新の新たな決意あるものゝ如く某氏を通じて其の誠意を披瀝されたり。よつて本会は七月三十日重ねて總會を開催したる結果此処に村民大会の開催を一定期間延期して、此の〔欠〕当局者〔欠〕の誠意あり〔欠〕を〔欠〕するに決し〔欠〕此の〔欠〕結果不幸にし〔欠〕ての誠意〔欠〕認むるに〔欠〕るのなけ〔欠〕ば、断固〔欠〕して村民大〔欠〕を開催せんとするもの〔欠〕る事を此処に声明し、村民各位の御理解を乞う次第なり。尚村民各位に於かれましては将来〔欠〕村治刷新に關する〔欠〕行動に対しては〔欠〕援助と御声援を給〔欠〕を

重ねて乞うもの〔欠〕

昭和十三年七月三十日創生会朝倉支部蠅城部会

村民各位

《創生会朝倉支部蠅城部会の発会式を挙行さる》

昭和十一年四月九日甘木町希声館に於いて創生会朝倉支部を結成以來、朝倉軌道会社経営のパス賃金値下げ運動、生繭現金市場復活運動、支那事変に対する郡民の奮起を促し、日独伊三国同盟促進運動等朝倉郡初まりて以來かつてなき活発なる行動を継続して来た事は郡民大衆の等しく知る処であらう。而し時局の動きに対し全く盲目にして依然として此の國難下に自己保善の夢を見つゝある一部郡民は創生会に対して危険、過激等とあらゆるデマを飛ばし、吾々の正義の運動を阻止せんとし今日に至つたのであるが時局の重大性と共に農村青壮年者間には創生会の実体を深く研究し、認識され入会申込み、支部機関紙たる革新興論の講読申込み等日に日に続出の有様にて、将来の創生会の発展は実に郡民大衆より注目の的となつて居る。此の時朝倉支部では従來の組織を、細部組織化し尚一層統制強化を計り國家革新に向つて邁進する事

になり、過日役員会開催の結果各村に部会を結成する事に決定、其の第一着手として七月十七日午後九時より蠅城小学校々堂に於いて本部より中野、山崎、下地、千草、常盤、其の他二名、朝倉支部より緒方顧問、井上総務、城石会計、牧出版部長、白水氏其の他出席の元に部会結成式を挙行した。今後蠅城部会の活躍は同村々民より多大に注目されるに至つた。尚同部会々員の氏名は左記の通り（年順）。

林田卯吉 大楠清 部会長山見留吉 事務長国松寅雄 林伍平 永露忠利 事業部長豊原與三郎 長野 実 会計林米藏 西幸夫 西源 会計副長野佐平 西傳太 牟田利男
（七月二十日迄）

《会告》

会員の方々には御多忙中の事と思ひます。正に時局は重大なる時期に直面しました。吾々は今後尚一層の活動を致しまして団結の必要を痛感すると共に主義の宣伝に努力致しまして熱のある同志を確得致しましょう。其れに就いて新聞を会員の処に少し送りますから、近所の人々に必ず配つて下さい。右何卒御願ひします。講読申込みの方がございましたら葉書で

御通知下さい。葉書代は発行所にて差上げます。此の点は特
に印丸栄次郎、和佐野岩吉、藤本卯平次、伊藤栄司、八尋栄、
加峯栄三郎、高橋支部長、永露善九郎、大橋清氏の方々に御
願います。

《自治研究》

創生会朝倉支部蛭城部会は毎月十日に部会の例会として事
務所に集合し清水先生の主張を研究するの外、毎月二十日に
自治の研究会を開催する事に決定したので会員外の方々もど
しどし御参加下さい（夜間）。尚此の研究会には村内有志の
方々を一人二人づつ来て頂く積りであります。

《支部報告》

七月五日

午後九時より〔欠〕田氏宅に於いて〔欠〕
員会を開催の処〔欠〕の為中止するも永露、
倉光要の二氏出席す。

七月八日

上京中の清水先生帰福に付本部座談会へ出
席の為午後八時甘木発にて左の諸氏は出福
し午前三時甘木に帰宅す。井上、牧、柴田、

七月十二日

永露、倉光、原野、草場。
午後三時より事務所に常任委員会を開催し
部会結成式の件を決議す。

七月十四日

緒方久市郎氏は朝倉支部顧問に就任す。

七月十三日

蛭城部会は十四日施行された村葬に対し皇
道精神決起の必要を痛感し、ピラ六百枚配布
す。

七月十四日

午後八時より永露忠利氏宅に国松、山見、
林の三氏集合。蛭城部会結成〔欠〕協議し

午前二時散会。

七月十五日

午前十時より牧、永露忠利の両氏は会費集
金中の処本部より至急出福せよとの電あ
り。永露〔欠〕午後四時より出福〔欠〕後
十二時に帰宅す。

七月十六日

午後八時より蛭城小学校裁縫室に於いて蛭
城部会結成式の準備を行ふ。出席者左の通
り。山見、国松、林伍平、林田卯吉、永露、
林米蔵、〔欠〕幸雄、西傳太、〔欠〕平、牟
田利男〔欠〕

〔第一八号〕 一九三八（昭和一三）年九月一〇日

《今夜甘木町希声館で 時局突破郡民大会 大演説会 正義の士よどしどし来れ》

日時 九月十日午後八時半

弁士 創生会朝倉支部事務長永露忠利

同総務井上鶴蔵 同研究部長有富春人

福岡毎朝新聞記者小田信二郎

九日記者 創生会幹事山崎末男

（朝倉軌道会社々長多田勇雄（交渉中）外飛入数名

朝倉軌道会社が三輪村山野にガソリン一万罐隠匿事件に就いては其の事実を調査し断乎として報導したる処、此の多田社長の行為はガソリン統制法にはたとへ違反しないとすも、自己を利する為国策に反するが如き行為は精神的罪咎として徹底的糾弾の必要ある事を郡内先覚者間には力説するもの多く、遂に前記の通り大だ的に糾弾の烽を上る事になつた。此の演説会に於いて最も注目されて居るのは糾弾演説会に對して非とする処あらば多田社長は是が釈明演説をすべき

であるとして目下多田社長に交渉中である。当夜は大刀洗甘木間自動車（日曜祭日）増発拒絶事件其の他会社の独占事業に對する欲暴が此のガソリン問題と同時に徹底的に糾弾されるはず。

《創生会蟻城部会 村当局に具体案提出》

創生会蟻城部会は今回村当局に於ける軍事扶助料に関する不祥事件に關し村民大会を開催、村民と共に今後二度かかる不祥事の再発なきよう村当局に注意を喚起し、是を機会として全般的村治の刷新運動を展開せんとして居たが某村議の誠意ある言に對して当分大会を延期し、是に変わるべきものとして、去る八月十八日部会集會を開催し協議したる結果、先ず実行し安き村治刷新に關する九カ条からなる左の要望書を九月五日村当局に手交した。尚此の要望書は村會議員及び区長にも郵送し、是が目的遂行に助力を乞ふ事になつた。

一、村会の開催は必ず神聖なるべき場所を選ぶ事。

一、村民に對する村子算書及び決算書の秘密化を廃する事。

一、軍事扶助料は毎月堅く申請し、当局より給付ありたる

時は速かに之を支給する事。

- 一、村当局者の出張旅費は実費の支給に勤める事。
- 一、吏員の優遇を図り、今後役場内の不正行為の再発を絶対に防止する事。

- 一、村当局は適宜一般村民の会合を含め村治刷新に関する研究会を開催する事（夜間）。

- 一、役場内にある者は総て、特に礼儀、道徳を重んずる事。
- 一、農繁期の村民は役場要件に就いて、中食時の寸暇を利用する事多き為、特に之が利便を図る事。

- 一、役場の小使を一宮利店の小使化せしめざる事。

《会告》

会員諸兄には御多忙中と思いますが、九月十日午後八時半より甘木町希声館で演説会を開く事になりましたので、当夜は本部から六七名、其の他から数名御出でになりますので準備其の他の都合もありますれば何卒当日は午後六時か七時迄には是非御出席下さる様切に願ひ申します。尚当夜は会員席を設けて居りますので遅くなられました会員でも受付に申出で下さい。

読者へ。読者諸兄の席も設けて居りますから自分は読者で

あると受付に申し下さると幸いです。

尚ほ本紙二面の下にある購読申込書へ記入されて受付へ出されると便利です。

《本紙の愛読者勧誘に会員の奮起を望む》

革新の寵児本紙かく、しん、こう、ろん、が昨年の四月に発行されるや郡内に於ける保守陣営からは自己改善の為必死となつて危険、過激、右翼等と逆宣伝され、ややもすれば本紙特有の正論は常に地下へ葬り去られんとして来た。而し号を重ねる毎に郡内正義に燃ゆる青壯年者間には本紙の正論に對しては双手を挙げて支持される者、激励される方統出されるに至り引ひては講読申込者も本年に至つて早くも百数十名の多きに達し、ようやくにして本紙の正論が郡民一般大衆より深く認められんとして来たことは過去に於いて会員諸兄が貴き私費を投じて正しい運動を継続した来た賜であると思われる。故に吾々は今後益々正しく、清く熱のある行動を継続し初期の目的に邁進しなければならぬ。此の為には一人でも多くの読者を確得して革新輿論を一枚でも多く発行する事が、清水先生の主張に寄る正しき理想の社会の出現を早める

事になるであろう。同志諸兄時期は熱せり、知人、友人に向つて本紙の御購読方勸誘下されて事務所に御通知願ひます。

現在既に一人で二十名十名、五名と勸誘された会員もあります。何卒会員一人に必ず一人以上の購読者を確得して現在千二百部発行して居るのを二千、三千枚と発行される様奮起して下さい。

《支部〔欠〕》

前号より

七月十七日 午後八時〔欠〕結成式を〔欠〕

七月十九日 午後九時〔欠〕事務所に〔欠〕二回例会〔欠〕

決議を行〔欠〕一、革新興〔欠〕件 一、
村政刷新〔欠〕

七月二十四日 午前九時よ〔欠〕集会村政事〔欠〕大事件

に關〔欠〕奮起する〔欠〕事実の〔欠〕し
た出席〔欠〕林〔伍〕〔欠〕長野〔佐〕〔欠〕
永露、西〔欠〕

《支部集会》

来る二十日午後七時半より立石村来春の事務所に於ひて支部の集会を開催しますから会員は御出席下さい。尚役員は是非御出席して下さい。別に通知は出しません。

《時局突破郡民大会盛大に挙行さる》

去る九月十日午後八時半より甘木町希声館に於いて創生会朝倉郡支部主催本紙革新興論後援の元に時局突破朝倉郡々民大会は開催された。当日は朝来雨模様となり今にも降雨ありやに見えたが正義に生きる創生会の主催者であると云ふ事が天が知つたのであるまいけれ共、夕刻より晴天となつて、開会前既に会場は満員となつて郡民は時局突破の熱意大なるものあつた。時刻一分違はず城石茂治氏立つて開会を宣し東方遙拝、国歌奉唱と式順を進行し、井上氏は立ち主催者の挨拶として郡民一致現時局を突破する事こそ今次支那事変をして東洋永遠の平和を確立する事が出来るのであると力説し降壇、宣言、決議を行ふ為永露忠利氏は座長に井上鶴藏氏を推薦、参会者の了解を求め、井上氏座長に着席するや、林伍平

氏は宣言決議を大声にて朗読すれば大拍手起り、此処に満場一致成立したる後、一人の来賓挨拶あり続いて城石氏九州各地より送られたる激電を披露あり。一旦大会を閉会し、演説会に移り朝倉支部永露忠利氏は立つて朝倉軌道会社のガソリン一万罐事件に就いて別項の如く徹底的に糾弾をなし降壇すれば、福岡毎朝新聞社々長小田部氏登壇、ガソリン事件に対する多田社長の国策違反行為に一矢をあげせ一大拍手を受けて後此のガソリン事件に対する当局の態度に対して熱弁を以て約三十分間徹底的に批判を加へ会場の破れんばかりの大拍手を受けて降壇。それより石村貞雄氏は中南支に於ける皇軍の活躍情況と守垣外交に対する熱弁を吐き、有富治人氏は老獺某国の対支援助に対する吾が国民の決意を強張すれば臨盆は……弁士……注意……を命ずる。それより有富氏は過去幾多の事変に見られる如く、外交の失敗を今次の支那事変に又繰り返す事のなき様に全国民は努力すべきである事を強く主張し降壇。午後十時四十分閉会非常なる盛会であつた。

(第二〇号) 一九三八(昭和一三)年十一月一〇日

《図書部新設》

今回創生会朝倉支部では図書部を新設して左の書籍を備へ會員の利便を図る事にしたから會員や其の他の方でもドシドシ御利用下さい。尚図書部主任に支部書記林伍平氏が就任される事になつた。

一、一人一度に一冊限り。
一、必ず一ヶ月以内に郵送か又は直接戻す事。

一、葉書で申込みば郵送する(會員に限る)。郵送料は申込者の負担とす。

一、會員外は別記手数料と郵送料を(切手)同封申込まれたし。

一、革新興論愛読者は手数料のみ(切手)同封申込まれたし。

一、紛失の時は定価表通り申受けます。

《蟾城部会第二回ゾウリ造り》

朝倉郡蟾城小学校に於いては国策遂行の線に副ふ一助として他に卒先して全生徒へアシナカゾウリの普及に勤めつつありたる処是は農家に取つても自給自足経済の一助ともなる事

から最近に至りては殆んど全生徒が此の薫ゾウリを履いて登校する様になつた。処が男手のない応召家庭に於いてはゾウリを造るに困難なる実情にあり。創生会朝倉支部蟻城部会では九月十七日午後八時より永露蹄鉄工場に各自薫を持つて集合、午後十二時迄ゾウリを造りたる結果四十足出来たのであるを第一回分として国松、永露、林米の三氏は蟻城校を訪問、是を手交し、ゾウリを造る事の出来ない応召家庭の児童に適宜履かせてもらう事にした。

尚同部会は第二回として十月二十三日午後七時より會員集合し十一時半迄ゾウリを造りたる結果五十足出来たので前記の主旨により山見、林伍、永露の三氏が蟻城校を訪問手交した。

《十月日記 朝倉支部》

二日 本部より五日柳川閣下来福を機会に本部に於いて座談会を開催するから出福せよと通知あり。

時間未定。

四日 柳川閣下は五日午前十一時博多駅着との電報あり。

五日

城石茂治、永露忠利、林田卯吉の三氏は本部に出福、柳川中将閣下を中心に時局座談会に出席午後二時帰宅す。尚三氏は橋口町旅順館内愛市推薦同盟事務所を訪問、多数同士に面接激励した。

七日

支部長、牧の二氏は永露氏宅にて要談、午後七時散会す。原稿十月月号最終を送る。

九日

十月号の新聞出来発送準備。同志上野一二、林田の二氏来る。

十日

新聞発行並に発行準備、推薦同盟の同志へ柿を送る。

十一日

新聞発行す。

十五日

〔欠〕及び山〔欠〕件の為〔欠〕

十八日

〔欠〕時より〔欠〕出福午前二時半帰宅〔欠〕

十九日

愛市推薦同盟並〔欠〕に高橋清作候補に激〔欠〕を発す。

二十日

事務所に井上、〔欠〕牧、〔欠〕、林田、山見〔欠〕留吉、林伍平、豊原〔欠〕三郎〔欠〕野、武井新〔欠〕郎、〔欠〕氏等集合し〔欠〕

二十一日 高橋大佐市会〔欠〕に当選したる結果祝電を打つ尚推薦同盟へ〔欠〕大勝電を発す。

二十二日 城石、草場の〔欠〕両氏永露氏宅にて要談午後六時散解す。

二十五日 創生来る。

二十六日 創生発送す本部〔欠〕会員の出席〔欠〕来る。

二十七日 草場氏より電話あり。

二十八日 林田、山見、国松、〔欠〕西幸、豊原、永露忠利の〔欠〕は本部〔欠〕会に参加〔欠〕を見学〔欠〕時自転〔欠〕

〔第二号〕 一九三八（昭和一三）年二月四日

《会員へ急告》

会員の方は来る五日午後七時より事務所に於いて支部集會を開催しまして各種報告並に時局座談會を開催しますから是非共御出席下さい。

一、治療部設立に寄付されて居られました方は特に重用打合せたき事あり特に御出席下さい。

一、会員の方で革新興論、新年号に年賀掲載希望の方は至急御一報下さい。但し後日十銭を申受けます。御一報なき方には掲載致しません（十五日迄事務局へ）。

《蛭城部会 十月日誌》

十日 蛭城部会の例会

十六日 集會を開催し左の件を協議す。

一、十九日戦死者の墓参りをする事

二、ゾウリ造りの件

三、主義研究の件

十九日 午後七時永露忠利氏宅に林伍平、林田、牟田利

男、西幸雄、国松、豊原、林米蔵の八氏は村内犠牲の墓参りをなし午後十一時半散解す。〔欠〕

靖国〔欠〕

二十三日 〔欠〕午後〔欠〕造り散解〔欠〕。

二十四日 午後一時〔欠〕永露の二氏は小学校〔欠〕訪問

ゾウリを送る。

尚同夜は永露忠利氏宅に林伍平、林米蔵集合〔欠〕義の研究を成す。

二十六日 午後七時〔欠〕事務所林伍平氏宅〔欠〕松、林

田、西傳太〔欠〕原、永露忠利、山見〔欠〕雄
集合清水先生〔欠〕教の修養〔欠〕二時散解〔欠〕。

〔第二三号〕 一九三九（昭和一四）年一月三日

《治療部移転》

創生会朝倉郡支部は清水式エネルギー療法による治療部開設以来幾多重病者の治療に従事しつつあつたが、初代主任牟田氏の出征、二代目牧氏又某所へ勤務する事になり遺憾乍昨年八月より休業するのやむなきに至つたが各方面より切なる要望もあり、其後馬田村馬田の原野進氏が本部に於いて研究し帰宅したので来る五日頃より前記原野氏宅に治療部を開設する事になつた。尚同地は甘木庄屋町より九鉄電車にて片道二錢で馬田停留所下車大刀洗県道へ出ればすぐである。ドンシ御利用を乞ふ。

《会告》

△新年より同志諸兄の大奮起を望んで止まぬ。

△清水先生は転換期に善処する為に上京された。

△年賀欄には申込みなき会員は掲載しませんでした。どうぞ悪からず。

△二月号より同志の機関紙としてどしどし御意見を寄稿して下さい。責任者僕は原稿不足でホーホーの態です。少し助けて下さい。

△新年初頭に某方面の○○問題の為正義の刀を抜くかも知れませんが。其の時はどうぞ御支援を。

△城石会計老ひたれど会費集金にあせたくあせたく。何卒会計を助けて。

△同志出征者 和佐野福美、長野実、西田勇、塚本深喜君等健在ですか。牟田君の便り全くなきはどうかしたものかな。

（永露）

〔第二三号〕 一九三九（昭和一四）年二月一〇日

《支部雑報》

今月号は山崎、江崎両兄の御寄稿を得て非常に意義ある新聞が出来ました事を読者と共に喜びに堪へぬ。今後何卒御

寄稿を切望します。

△牟田氏は今回清水先生の発明されたインキの製造所で働いて居ります。無口でよく働いて居られ、事でしょう。

△井上氏は一月十五日より四月迄〇〇の為福岡に居りますが、達者です。

△清水先生は近く上京されるでしょう。御元氣です。

△倉光さん「肥料の素」に研究怠りなし。同志の熱意は必ず

農村肥料問題解決に至るであらう。

△二月五日清水先生の一行は浮羽郡へ行かれ帰途林伍平氏宅に構へる蟻城部会に立寄られて帰福される。

△各地同志諸兄に願ふ。何卒吾支部の革新輿論御愛読を切望す。

《指令》

来る二月十一日は建国祭ですから同志は午前八時を期して戦死者の墓参りをして下さい。

支部長

《支部治療部移転開業》

一昨秋治療部主任牟田氏応召以来休業して同志及患者に大

変迷惑を掛けましたが今回後任として馬田村馬田倉光進氏が主任として治療を担当され新年早々移転を完了、特に氏の厚意によりストープを設置して寒中でも患者の治療に遺憾なきを期せられました。旧に倍してどしどし御利用御後援を御願ひします。尚会員の中で会員半額券を公布されて居ない方は申出下さい。

事業係

〔第二四号〕 一九三九（昭和一四）年三月一〇日

《急告》

会場所 会場は清水先生〔欠〕為午後一時に是〔欠〕られたし。集

《蟻城部会の陣容はなる》

創生会朝倉支部は結成以来創生主義に共鳴する者の入会者多く将来の発展は郡民より多大の注目を受けて居るが、支部に於ては発展と共に是が統制に遺憾なきを期する為には支部を更に細部組織化するの必要に迫られ逐次各村に部会を結成する事になつて居るが、其の第一着手として昨年七月蟻城部

会を結成し今日に至つたが、同部会の活動は村政の刷新に銃後の守りに目覚しきものあり村民より注目されて居る。同部会は今後尚一層の活動を転回する為に其の陣容を強化し、去る一月五日同村林伍平氏宅に事務所を開設すると共に最近に至りては会員の精神修養道場の設置が計画されつゝあり是が実現せば今後に於ける同部会の一挙一動は一般大衆より非常なる注目を受けるであらう。

目下の同部会々員は、林田卯吉、山見留吉、林伍平、永露忠利、国松寅雄、豊原与三郎、長野実、林米蔵、西幸雄、長野佐平、西傳太、牟田利男の十三名である。部会長山見氏は語る

僕が創生会に正式に入会したのは昨年の七月であつたが、心だけ入会してもう三四年になる。其の機会がなかつたから入会が遅くなつた迄だ。入会したからには創生会員の面目をけがさない様にしつかりやるつもりである。世の中では未だに創生会を危険だとか、農民組合だとか云ふ様なデマを飛ばして居る者がある様だがそれは何者かが自己の為にせんとするデマである、と。何でも云ふがよい。其の様な人物は取るに足らん輩だらう。正義の精神が日本になかつたならば日本は

もう真暗だ。吾々は神の如き清水先生の御指導によつて親の精神に向つて邁進するのみ。今〔欠〕部会の看板をかけて尚一層其の感を深くした。今後は各地の同志、村民大衆のよりよき御指導あらん事を祈るのみ。

林伍平氏

兎角看板をかけた以上は自分の力の続く限り創生運動をやつて清水先生の主張が一刻も早く此の世に実現されなければならんと思ふ。そうなる時に初めて国民は吾創生会を認めてくれるであらう。各地会員諸兄しつかりやりましようや。

国松寅雄氏

清水先生の著書「建国」を二回読みましたがつまり建国の精神に依つて政治家が動くならば創生会はいらなと思ひます。御互ひ会員は精神の修養をしつかり致しましょう。

《緊急指令》

三月十一日午後七時半より支部結成三周年大会、並に是が記念講演会を前記場所に於いて開催する事に決定に付左の通り〔欠〕通じて指令す。

一、諸種の準備〔欠〕午后四時半迄に〔欠〕れ〔欠〕を得

ざる場合は六時半迄には出席して下さい。

二、必ず受付にて氏名を記入される事。

三、演説会終了後清水先生を中心に座談会開催に付参加者は事前に申出られる事（場所未定）。

四、五分演説をされる人は開会前一時間前に申出る事。

五、一定の処に着席する事。

六、当日は未納の会費は徴収せず。旧便宜上支払ふ者は此の限りに非ず。

七、清水先生は大会以外には見えませんから万事御繰合せの上、偉人清水先生の御人格に接して下さい。以上

会員殿

《蜷城部会の建国祭》

去る二月十一日聖戦下第二年目の建国祭当日創生会蜷城部

会員全員は午前六時部会事務所に集合。東方遙拝後自転車にて今次支那事変に於ける同村戦死者○柱の墓参をなし午前八時に解散した。

《パンフレット「創生」に就いて》

創生会本部に於いて発行して居りました創生新聞は多数会員の希望により十三年十一月号より、雑誌にして内容を充実して発行されつゝあります。就いて従来新聞の一部五銭でありましたが雑誌は一部十銭（毎月一回発行）でありますから、普通会员の方への雑誌を御送りしますと支部は欠損しなければなりませんから、会員の方は直接本部か支部事務局宛に御申込み下さい。

半ヶ年前金六十銭

一ヶ年前金一円二十銭

であります。今月号の主なる内容は

一、建国遷都論 著者 国島明治

一、吾国古代遷都の一形態 著者 清水芳太郎

〔第二五号〕 一九三九（昭和一四）年四月四日

《創生会朝倉支部三周年大会盛大に挙行さる》

創生会朝倉支部結成三周年記念大会は三月二十日午後七時半より甘木町希声館に於いて盛大に挙行された。当日は前日より降り続く雨尚止まず主催者一同心痛の種であった。而し

夕刻に至りて霧雨と化すや憂国の士は傘を片手にドシドシ殺
到し来り開会前既に会場は満員となつた。

定刻一分違はず進行係林伍平君は開会と呼ぶや城石茂治氏
開会を宣し東方遙拝国歌合唱と終るや支部長は主催者として
簡單なる挨拶をなし最後に「後から沢山の弁士が吐くから耳
をすまして諸君はよく聞く事終り」と言つて降壇、宣言決議
を行ふ為に座長選挙となるや。

城石氏は永露忠利氏を座長に推薦する事を聴衆に了解を求
め、永露氏座長に着席するや倉光要氏宣言綱領並に別項の如
き決議を朗読すれば永露氏は決議文の簡單なる説明をなすや
満場一致可決。統いて福岡支部代表柴田潔氏は来賓として「創
生会の発展する事は全国民否全東亜民族を幸福化を速進せし
むるものである。諸君が自己の幸福化と国家の大躍進を乞ふ
ならば先ず創生会に来れ」と喝破し降壇すれば、本部田中末
次郎氏はあの天才的熱弁をもつて過故数年来絶叫し続けて来
た創生会の主張と支那事变下現時局とを対照し創生会の主張
が常に先端的である事の事実を約一時間に亘つて指摘し降壇
するやしばし拍手は止まず。是にて大会を一応閉会したる後
会場の整理を行ひ引続き記念講演会に移り西方千里氏起つて

北中支を視察して得たる思想經濟政治的に又創生会綱領と支
那事变とを結び合せて詳細に説明する事一時間半、又有富氏
は東亜建設大事業遂行の為に国内革新の必要を氏一流の熱弁
を以つて力説約一時間に亘り聴衆に多大の感動を與えた。
斯くして午後十時閉会したる後別室にて会員の時局座談会
を開催し午後十時半雨降る中を帰路についた。

決議

一、支那事变〇〇〇〇に対する〇〇事件のあるは銃後国民
の団結を阻害する事甚だ大なり。よつて当局は是に對し
て断乎たる処置あらん事切望す。

激励電報

聖戰遂行の為庶政の革新断行すべきの時此処に大会を祝し

諸兄の御健闘を祈る 冲蔵

盛會を祈る 福岡支部

大会を祝す 東京支部

御盛會を祈る 大日本青年党

御盛會を祝し革新の為折角奮闘を祈る 常盤光行

御盛會を祝す 浮羽支部

《蜷城部会の奮闘を見よ》

創生会朝倉支・蜷城部会では結成以来其の活動は一般村民より注目されて居るが最近では村長の村治に対する金銭上の不詳事件相次ぐに付蜷城部会は断固たる行動を開始し三月二十日村長糾弾演説会を開催する事に成つて居たが、村長は自己の道徳的罪悪が村民に知れる事を恐れてか会場の使用を拒絶したので増々憤慨し、本紙に蜷城村長糾弾演説会を開催する事になり特別編纂をなして同村内各戸に配布する事に成つた。

尚写真眞は会員と事務所

長野実長野佐平の両君は応召中 牟田利男西伝太君は急用に付不在

向かつて前列右より林田卯吉 牧辰夫西幸雄林伍平永露忠
利後列右より豊原興三郎（欠）

《公告》

西田勇氏から会員に四六四九と通信が参りました。次号に本紙へ出します。△原稿を送つて下さる方は必ず十二字を一行にして送つて下さい。△近日会費の入つて居らない方には参りますから是非入れて下さい。△清水先生は本月中頃東京

に行かれるそうです。会員は一人に一人は必ず革新輿論の読者を紹介して下さい。熱心な人は一人で二十人位紹介して居ります。△役員の方々は来る八日は午後七時半に事務所集合して下さい。

《急售》

来る八日午後七時半より来春事務所^で倒会^をします是非御集合下さい。

〔第二六号〕 一九三九（昭和一四）年五月一〇日

《蜷城村長辞職す 村会の正しき審判は創生会に凱歌挙る》

朝倉郡蜷城村長の時局に対する金銭上の不詳事件の数々は聖戦下同村々民の甚だ遺憾とする処であつたが、創生会蜷城部会に於いても黙視する事を得ず断然蹶起し村長糾弾の叫びを上げんとしたが、村長は学校講堂を其の会場に使用する事を拒絶した事より問題は益々紛糾し創生会対村長の成り行きは各方面より多大の注目を受けて居た処、創生会は本紙上に村長糾弾演説文を掲載し、それを各戸に配布したる処全村民

の血は湧き村長は速時^{すつじ}辭職せよとの叫びは益々激烈と化した。

一方村會議員も四月十三日某所に会合、議員の立場より萩野、斉藤の兩議員を代表として非公式に村長に辭職を勧告するに至つた。其の結果十五日村会は召集され其の席上辭表を提出、速日^{すつじつ}議員、区長の協議会に於いて其の辭表は全く意^い義^ぎなく受理された。此処に於いて後任村長の如何に依つては朝倉郡一の明朗蟻城村が生れるに至るであらうと見られて居る。

《各地雜報》

△有富氏より本月六日に東京より便りある。「前略若葉の東京を馳廻^{ちくわい}つて居ります。先生も元氣です。色々と愉快な話もありますが帰りました。同志に宜敷」。

△蟻城部会は後任村長に就いて多大の注目をして居る。後任の如何に依つては革新は出来ぬ。部会事務所は毎夜各地の情報を集めて毎夜の如く午前一時とか二時である。

△山崎末男氏に東京便りを望む會員多く何卒次号には御寄稿を乞ふ。

△長年同志〔欠〕本部の東京〔欠〕

△清水先生〔欠〕飛行機で上京された。〔欠〕部の江崎氏は四月初旬に有富氏は四月二十八日に急に上京された。

△石村福岡支部長久留米九州日報支局長に榮転、後任に柴田潔氏が就任された。今後同支部の活躍は期待される。

△朝倉支部永露忠利氏は四月十九日本部の急招により出福した。尚倉光要氏も二十三日福岡本部に要談した。

△朝倉支部総務井上鶴藏氏は大刀洗〇〇に通勤される事になつた。

△山崎糸島支部長〔欠〕に宜敷と。又東京〔欠〕も同志に宜敷と。〔欠〕至極元氣だそう〔欠〕福岡支部長柴田氏の便り。

高橋先生も全国議長会議に出席の帰途、東京は清水先生、有富、山崎、江崎の諸氏で賑わつて居るとの事。うらやましい限りである。創生は目下五月号〔欠〕である、と。

〔第二七号〕 一九三九（昭和一四）年六月一〇日

《創生会主催 革新団体懇談会》

大陸の長期建設は統後國民が一致協力犠牲的行動ある事の

みに依つて完全に遂行されるのであり国民をして犠牲的精神を遺憾なく発起せしめんとするならば之が指導的地位にある処の為政者連中の頭脳から先ず個人主義の亡国思想を清淨し去らなければならぬ。而して為政者の連中が一部財閥の利得の為に政治を論ぜず真に大局的立場に起つ時初めて全国民は其の目的の為に邁進するに至るのであらう。

而し乍現下に於ける為政者の態度は果して銃後国民をして其の目的の為に邁進せしめる何ものかがあるのであらうか。

斯る折創生会福岡支部では五月二十五日午後七時より九州日報社会議室に於いて中央にありて昭和維新断行を目標に活発なる行動をなしつつある「維新公論」飯島與志雄氏、聖戦貫徹同盟永代秀三氏、七生社穂積五一氏、大和正俊氏を招聘し在福大日本青年党矯志社九大皇道会並に創生会各地支部員等四十余名出席あり。福岡支部長柴田氏の開会の辞に初まり「最近に於ける内外政情の動き、愛国団体の現状維新運動の見透しと其の根本的態度、支那の実情と国内問題」等を研究懇談し多大の収穫を得て午後十一時半散解した。

尚朝倉支部よりは農繁期に直面した関係から城石出版部長、永露事務長の二氏が出席した。

《論昌紡事件に憤慨》

去る六日上海論昌紡に於いて英人が吾陸戦隊に不法発砲せし事件が新聞に報ぜられるや創生会朝倉支部全同志は憤慨し、去る七、八、九の連日に互り、草場茂太、長野実、城石茂治、倉光要、山見留吉、林伍平、国松寅雄の諸氏は農繁特に雨模様にて多忙其極にあるにも拘らず憂国の血は湧き、寸暇を割つて永露忠利氏宅へ電話、文書、直接面接に依つて事件は重大性ある為断乎たる決意を各当局者へ要望してくれとの申込があつたので高橋支部長と協議の上左の通りの激電並航空便を九日発送した。

英人の行動憤慨に絶えず 断乎たる処置を望む

米内海相（電報）板垣陸相（航空）上海陸戦司令官（同）

有田外相（航空）上海日本領事館（航空）

《各地雜報》

糸島郡支部長山崎勝氏は今回同郡副農会長に就任された。

今後に於ける同郡農会の刷新は郡民より多大に注目されて居るそうです。

△本部書記長常盤光行氏の母堂は五月二十八日永眠されました。

△熊本県創生会書記長雨森隆道氏は熊本市唐人町に於いて東洋食料化学研究所を經營して清水先生発明の「ポ―ネ」を製造して居られます。

△筑紫郡支部は五月十五日下旬より〇〇〇〇に關して或る種の活動を転回せんとしつゝあつたが都合で一時中止するこゝとなつたと。

△本部に於いては各地同志が出福した場合に宿泊される様に目下其の準備をして居られると云ふ。各地同志は本部に時折出て連絡を密にしませう。

△本部には福岡支部長たる熱の同志柴田潔氏が居られます。

《會員の方へ》

一、創生「パンフレット」は会費外でありますから特別會員外の方で申込んでない方はハガキで申込んで下さい。代金は別記の通りです。

一、サナボリには各地で時局座談会をやりたいと思ひますから準備して下さい。必ず夜間にして場所は會員の内に致し

ましよう。

一、八月迄に清水先生は各支部を廻られるそうですから其の時は全會員の御集合を願ひます。

一、革新輿論の読者を各自で一人は必ず御紹介下さい。

一、会費をなるべく収金に行かなくてもよい様にして下さい。会計は昼は仕事で疲れて居りますから夜の収金は非常に無理で気毒です。御互ひに助け合ふではありませんか。一、新聞の共宅金の積立金を入れてない方は六月二十五日迄是非願ひます。朝倉支部長

〔第二八号〕 一九三九（昭和一四）年七月一六日

《各地雜報》

△熱の同志塚本深喜氏より戦地便りが来て居りますが次号にて御目にかけます。

△清水先生の御病氣は「欠」によくなられつつあり「欠」

△長崎県創生会の発会式「欠」今月二十二日挙行され「欠」

日程にて福岡県本部より「欠」橋顧問、田中末次郎氏、柴田潔氏等が出席されるはず。柴田福岡支部長は本月「欠」

日朝倉支部訪問要談し〔欠〕朝倉支部城石茂治氏、永露忠利氏は七月一日町村長会〔欠〕具島氏並びに仲山連台分会〔欠〕を訪問英国打倒国民大会に関し要談した。

〔第二九号〕 一九三九（昭和一四）年八月二十七日

《創生会慰霊祭》

創生会朝倉支部蟻城部会では村当局を初め村内各種団体の後援を得て八月二十七日（旧盆七月十三日）午後六時より十時迄日清、日露今次事変に於ける貴き英霊の写真を同村小学校講堂に安置し慰霊祭を行ふ事になった。全村民の参拝ある筈。

《重大声明》

日独伊ソ四国同盟を即時締結せよ〔欠〕。

《雑報》

「今月号は諸種の都合で〔欠〕ました悪からず。△山崎〔欠〕氏は七月二十日帰福。本月〔欠〕日帰郷された△清水先生の

御病気は非常によいのであります。△七月三十一日は本部にて八月五日は蟻城部会にて永露氏の東京便りを聞く座談会開催す。△八月十四日蟻城部会、十五日は夜須村三並支部、の三カ所に於いて、東京より来福された〔欠〕和正俊、矯志社町田の両氏を中心に座談す。△牟田仁右衛門氏は病気の為に満州より帰宅す。

《朝倉郡支部員急告》

来る八月三十日（旧盆十六日）午後正一時より来春支部事務所に於て総会を開催しますから時刻厳守の上全員是非御出席下さい。午後五時夕食を共にし七時散解^マ予程^マ。尚左の件を御了承されたし。

一、特別事故の為に欠席の場合は最寄の会員か又はハガキにて必ず欠席届を出す事。
一、欠席届なき者は退会するものと認め会員名簿より革新興論の愛読者名簿へ編入す。

一、会費未納者にして、無断欠席者に対しては同日午後七時より開催する役員会の協議に依り除名し、支部細則により機関紙上に公表す。

《東京雜感二題》

(中略) 去る七月二十日より九日間の予定にて東京にある革新団体の活動状況を視察すべく上京した。(中略) 尚在京重なる日誌は次の通り、他に面接した人もありますが紙上発表を御遠慮申上ます。

二十日 午後二時甘木署町田高等主任、池尻、三島両氏を

初め支部同志十余名の見送りを受けて甘木駅発、

午後七時三十八分柴田福岡支部長、福岡署高等係

石橋、大塚両氏の見送りを受け博多駅発十時特急

サクラにて下関発。

二十一日 午後四時三十五分東京着。同志〇〇氏の出迎へを受く。午後七時半より帝都防空演習を視察す。

二十二日 宮城遙拝、靖国神社参拝、軍人会館に於ける全国

学生排英大会に出席す。平凡社々長下中弥三郎氏

に面接、英国大使館前にて三十分休む(警戒嚴重)。

二十三日 創生会東京支部平野伊太郎氏、及び杉森孝次郎先

生に面接す。時局談四時間半。

二十四日 頭山満先生に面接時局談一時間十分。明治神宮参

拝。大日本青年堂本部訪問。時局協議会。青年俱樂部訪問す。前田虎夫、藤村、長島の三氏に面接。

二十五日 三上卓氏と面接、夕刻毛唐動物園(寶塚)に〇〇

氏の招待で行く。

二十六日 警視庁、興亜院、陸軍省、外務省、帝国議事堂、

産業組合本部訪問す。

二十七日 大日本青年団本部訪問。久木田氏に面接。小菅刑

務所で井上日召、橋孝三郎氏に面接。維新公論社、

永代氏、大和氏に面接。堅壮寺にて二、二六関係

の処刑者の靈に参拝。午後十時東京駅発鳥羽行き

にて永代氏、大和氏、栗原氏等の四名見送りを受

け伊勢参拝、帰路に着す(永露忠利)。

〔第三〇号〕 一九三九(昭和一四)年九月一八日

《急告》

新聞を余分に送りましたから各戸に配つて下さい。各会員殿。

《時局演説会開催》

日英会談の決烈^ト、独ソ不可侵条約の締結、平沼内閣の退却、阿部内閣の登場、欧州動乱の勃発と内外の時局は刻々と変化した。かゝる時吾々国民は、吾政府は如何なる態度と、如何なる方針に依つて此の重大時局を打開し、善処するかに就て苦慮しつゝある時、創生会本部は去る八月三十日、福岡市西中州公会堂に於いて演説会を開催し其の根本方針を提示したのであつたが、朝倉支部も其の必要を痛感した結果、九月三日午後七時より同郡蜷城村小学校講堂に於いて会長沖蔵氏、大牟田支部長西方千里氏、福岡市支部長柴田潔氏を迎へて時局講演会を開催したのであつたが、同日夕刻より降り出した雨にも拘らず、福田、金川、大福の各村より多数の聴衆ありて非常に盛会であつた。

《各地雑報》

清水先生は愈々居を東京に移される事になりました。来る二十二日博多駅発にて出発されますので二十日先生の壮行会が行はれると。

▲熱の同志塚本深喜氏は軍曹として〇〇に奮戦中。

▲牟田仁右衛門氏病気の処満州より帰宅す。

▲同志西伝太君も非常に元氣にて奮戦中。

▲印丸栄次郎氏会の活動資金に五円也寄付さる。

▲長野佐平君戦地より金一円活動資金として送金さる。

▲井上昭氏より無事の通信あり。

《英国打倒演説会予告》

欧州動乱は日本に否東亜に取つては神風だ、此の機を失せず日本の敵、否東亜の敵英国を徹底的に排撃し、打倒すべきである。

此の時に当り吾支部は郡内各地に打倒英国の叫びを挙げる為に演説会を開催する事に決定した。御希望の向は会場を定め五日前迄に申込れたし。ピラは当支部より送付す。

尚会員は自己の居住する区に於いて是非開催する様準備されたし。必ず夜間を利用する事。(遊説部)

弁士 青年部長 山見留吉 農村部長 倉光 要

事業部長 長野 実 事務長 永露忠利

総務 井上鶴蔵 出版部長 城石茂治 其他